

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年6月29日
【事業年度】	第25期（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）
【会社名】	株式会社ユビキタスAI
【英訳名】	Ubiquitous AI Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 CEO 大吉 裕太
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿一丁目23番7号
【電話番号】	03 - 5908 - 3451
【事務連絡者氏名】	財務経理部 部長 舟橋 恵
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿一丁目23番7号
【電話番号】	03 - 5908 - 3451
【事務連絡者氏名】	財務経理部 部長 舟橋 恵
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
売上高 (千円)	2,058,165	1,938,288	3,478,999	4,138,789	3,924,475
経常利益又は経常損失( ) (千円)	90,943	76,179	87,649	92,889	213,688
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( ) (千円)	39,696	148,179	32,900	91,084	518,702
包括利益 (千円)	13,466	132,574	23,507	62,626	485,339
純資産額 (千円)	2,442,490	2,309,915	2,333,422	2,396,048	1,910,709
総資産額 (千円)	2,974,948	2,821,012	3,732,456	3,450,476	3,698,939
1株当たり純資産額 (円)	233.53	220.86	223.10	229.09	182.69
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( ) (円)	3.80	14.17	3.15	8.71	49.59
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	82.1	81.9	62.5	69.4	51.7
自己資本利益率 (%)	1.6	6.4	1.4	3.9	24.1
株価収益率 (倍)	-	-	191.11	43.05	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	221,543	87,283	188,198	137,876	137,845
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	149,187	104,306	11,719	23,157	62,570
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	318,873	220,915	851,271
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,705,449	1,514,932	1,401,217	1,341,054	1,995,296
従業員数 (人)	115	110	194	191	199
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(-)	(-)	(22)	(35)

(注) 1. 第21期、第22期及び第25期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。第23期及び第24期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 第21期、第22期及び第25期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。第23期以前の平均臨時雇用者数については、臨時雇用者の年間平均人員が従業員数の10%未満であるため記載を省略しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月	2026年 3 月
売上高 (千円)	1,669,204	1,628,623	1,756,376	2,060,488	1,983,066
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	55,868	18,507	82,298	5,146	365,776
当期純利益又は当期純損失 ( ) (千円)	43,761	74,316	120,084	458,386	579,067
資本金 (千円)	1,483,482	1,483,482	1,483,482	1,483,482	1,483,482
発行済株式総数 (株)	10,459,000	10,459,000	10,459,000	10,459,000	10,459,000
純資産額 (千円)	2,889,814	2,830,890	2,941,544	2,455,586	1,909,881
総資産額 (千円)	3,389,497	3,301,284	3,448,716	2,972,885	3,270,057
1株当たり純資産額 (円)	276.30	270.67	281.25	234.78	182.61
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 ( ) (円)	4.18	7.11	11.48	43.83	55.37
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	85.3	85.8	85.2	82.6	58.4
自己資本利益率 (%)	1.5	2.6	4.0	17.0	26.5
株価収益率 (倍)	-	-	52.44	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 (人)	86	83	75	101	106
(外、平均臨時雇用者数) (人)	(-)	(-)	(-)	(15)	(22)
株主総利回り (%)	68.3	57.6	88.3	55.0	48.1
(比較指標: 配当なしTOPIX) (%)	(99.6)	(102.5)	(141.7)	(136.1)	(179.0)
最高株価 (円)	699	573	1,034	615	507
最低株価 (円)	387	349	300	324	277

- (注) 1. 第21期、第22期、第24期及び第25期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。第23期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 第21期、第22期、第24期及び第25期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
3. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。第23期以前の平均臨時雇用者数については、臨時雇用者の年間平均人員が従業員数の10%未満であるため記載を省略しております。
4. 第24期において株式会社エイムを吸収合併したことに伴い、従業員数は増加しております。
5. 第21期まで、株主総利回りの比較指標としてJASDAQインデックスを使用しておりましたが、2022年の東京証券取引所の市場再編に伴い廃止されました。このため第21期から第25期までの比較指標を配当なしTOPIXに変更しております。
6. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日より東京証券取引所スタンダード市場におけるものであり、それ以前については東京証券取引所ジャスダック市場におけるものであります。

## 2【沿革】

当社は、コピキタス・ネットワーク化の進化により、携帯電話、家電、ゲーム機器、AV機器、自動車など身の周りのあらゆるものがネットワークに接続されたコンピュータで制御されるようになると考え「いつでも、どこでも、誰でも」面倒な操作なしにコピキタス・ネットワークの利便性を享受できる快適な生活を実現させるために設立いたしました。

2018年7月には、株式会社エーアイコーポレーションとの合併により、卓越したエンジニアリング力により高性能のソフトウェアを実現する「テクノロジー・インベーター」であり、かつ、世界中の優れたソフトウェアを発掘し、いち早く国内に展開する「テクノロジー・ブリッジ」として、優れたソリューションを提供することでお客様、社会のより良い未来に貢献できるよう日々事業に取り組んでまいりました。

そして2022年7月には、商号を「株式会社コピキタスAI」へ変更するとともに、「Exploring Everything」という新スローガンを発表し、同スローガンの下、製造業のお客様が必要とするテクノロジーとサービスを提供する企業として日々事業に取り組んでおります。

2023年4月には株式会社ライトストーンを、同年10月には株式会社グレースシステムを各々完全子会社化し、2024年8月には株式会社エイムを吸収合併して、グループ全体の規模拡大、基盤強化を進めてまいりました。

2025年9月に経営体制を刷新し、マテリアリティのひとつである「技術」を企業価値向上の中核に据え、持続的な成長と社会的意義の両立を目指す経営を推進しております。

量子コンピューティングの実用化やサイバー攻撃の高度化が進み、安全性と信頼性を確保する技術の重要性は経済安全保障の観点からも極めて重要かつ優先的に取り組むべきテーマとなっている中、こうした時代の要請に応え、次世代の情報社会の根幹を支える役割を果たしてまいります。

独自性と市場競争力を兼ね備えた“ニッチトップ”を目指して、技術と事業の両面での取り組みを進めてまいります。

年月	重要なイベントに関する事項
2001年5月	東京都渋谷区西原三丁目において株式会社コピキタスを設立
2001年8月	本社を東京都新宿区新宿三丁目1番13号京王新宿追分ビル6階に移転
2004年12月	第三者割当増資を行い、4億5千万円を資金調達
2006年3月	本社を東京都新宿区西新宿一丁目25番1号 新宿センタービル10階に移転
2007年11月	ジャスダック証券取引所NEOに株式を上場（NEOの第一号銘柄）
2010年2月	本社を東京都新宿区西新宿一丁目23番7号 新宿ファーストウエスト16階に移転
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所（NEO市場）に上場
2010年10月	大阪証券取引所内にJASDAQ市場が開設され、市場区分をJASDAQスタンダードへ移行
2010年12月	「JASDAQ-TOP20上場投信」組入銘柄に選定
2012年3月	本社を東京都新宿区西新宿六丁目10番1号 日土地西新宿ビル20階に移転
2012年12月	株式会社村田製作所と資本・業務提携
2014年12月	メリルリンチ日本証券株式会社（現 BofA証券株式会社）に行使価額修正条項付き新株予約権を発行することによる資金調達を開始
2015年4月	本社を東京都新宿区西新宿一丁目21番1号 明宝ビル6階に移転
2016年4月	株式会社エイムを連結子会社化
2017年4月	IoTプラットフォーム事業をソーバル株式会社へ譲渡
2017年4月	株式会社エーアイコーポレーションを連結子会社化
2017年5月	国内での取扱い製品数において組込みソフトウェアNo.1ベンダーとなることを目指して「コピキタス・AIコーポレーション グループ」ブランドを立ち上げ
2018年7月	株式会社エーアイコーポレーションとの合併及び「株式会社コピキタスAIコーポレーション」へ商号変更
2022年4月	市場区分変更に伴い、スタンダード市場へ移行
2022年7月	「株式会社コピキタスAI」へ商号変更
2022年7月	本社を東京都新宿区西新宿一丁目23番7号 新宿ファーストウエスト17階に移転
2023年4月	株式会社ライトストーンを連結子会社化
2023年10月	株式会社グレースシステムを連結子会社化
2023年11月	北九州ビジネスイノベーションセンターを開設
2024年8月	株式会社エイムを吸収合併
2025年4月	福岡R&Dセンターを開設
2025年11月	株式会社三菱UFJ銀行及び株式会社りそな銀行から計10億円を資金調達

年月	製品・サービスに関する事項
2001年11月	主力製品となる「Ubiquitous TCP/IP」の開発に成功
2003年 5月	株式会社東芝 デジタルメディアネットワーク社との間でソフトウェア使用許諾契約を締結 「Ubiquitous TCP/IP」がセキュリティ用Webカメラに採用
2004年 3月	株式会社ルネサステクノロジ（現 ルネサス エレクトロニクス株式会社）との間で「Ubiquitous TCP/IP」、「Ubiquitous Media Connect」、「Ubiquitous Rendezvous」に関する包括使用許諾契約を締結
2005年 8月	任天堂株式会社との間でソフトウェア使用許諾契約を締結 「Ubiquitous TCP/IP」と「Ubiquitous SSL」を基に開発された通信プロトコルスタックが「ニンテンドーDS」用の通信ライブラリに採用
2007年 4月	松下電器産業株式会社 半導体社（現 パナソニックホールディングス株式会社）との間で、USB関連ソフトウェアの使用許諾契約を締結
2008年 8月	「Ubiquitous TCP/IP」の累計出荷ライセンス数が1億本を突破
2008年 9月	エンサーク株式会社より組込みソフトウェア製品DeviceSQLを取得し、組込みデータベース事業を開始
2010年 3月	「Ubiquitous QuickBoot」を販売開始
2010年 9月	ネットワーク プラットフォームソフトウェア「Ubiquitous Network Framework」累計出荷数2億本を突破
2011年 7月	無線LAN用ソリューション「Ubiquitous WPS」を最新規格「WPS2.0」に対応した製品として出荷開始
2012年 5月	著作権保護付きコンテンツなどをホームネットワーク上で視聴する際に必須となるDTCP-IPコンテンツ保護ソリューション「Ubiquitous DTCP-IP」に、業界初となるDTCP-IPバージョン1.4（DTCP+）対応ソフトウェアライブラリを追加
2012年11月	ECHONET Lite準拠のミドルウェアを開発
2013年 5月	「Ubiquitous ECHONET Lite」がダイキン工業株式会社のルームエアコン「うるさら7」に採用
2013年12月	ワイヤレス環境でのリモートディスプレイ技術「Ubiquitous Miracast™ Solution」を販売開始
2014年 5月	「Ubiquitous Network Framework」がローム株式会社の国際標準規格IEEE 1901対応「HD-PLC」inside規格準拠ベースバンドLSIに採用
2014年 7月	スマートメーターとHEMS機器間の通信プロトコルスタック「Ubiquitous Wi-SMART」の販売開始
2014年11月	「Ubiquitous QuickBoot」が、株式会社デンソーテン（旧：富士通テン株式会社）のカーナビ「ECLIPSE（イクリプス）」2014年秋モデルに採用
2015年11月	セキュアIoTデバイスソリューション「Ubiquitous Securus」を開発
2016年 5月	「Ubiquitous TPM Security」を販売開始
2017年 1月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が1,100万本を突破
2017年 5月	「ComboConnect」を販売開始
2017年 9月	「Ubiquitous QuickBoot R2.0」を販売開始
2017年12月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が1,500万本を突破
2018年 7月	海外製ソフトウェアの取扱開始
2019年 2月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が2,000万本を突破
2019年 4月	セキュアIoTサービス開発ソリューション「Edge Trust」を提供開始
2019年 4月	Beyond Security Ltd.と共同開発したIoT機器の脆弱性検証に最適化したツール「beSTORM X」を利用した「IoTセキュリティ検証サービス」の提供を開始
2019年 7月	国内で初めて自社開発された商用版TLSプロトコルスタックであり、TLS1.3に対応したIoTデバイス向け軽量TLS/SSLプロトコル「Ubiquitous TLS」の販売を開始
2019年 9月	組込み機器にクラウドベースの音声サービスAmazon Alexaを搭載するためのソフトウェア開発キット「Ubiquitous Voice Service Connect」の販売を開始
2019年11月	ラブロック株式会社との間でブロックチェーンを活用したIoT機器のデータ改ざん防止ソリューションに関して業務提携
2019年12月	「Edge Trust」の新サービスメニューでありIoT機器の定期検診を行う「Edge Trust Health Check」の提供を開始
2019年12月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が3,000万本を突破
2020年 7月	車載システムソフトウェア開発用シミュレーターの共同開発のため、株式会社イー・アンド・デイ（現 株式会社A&Dホロンホールディングス）と業務提携

年月	製品・サービスに関する事項
2021年 2月	PTCジャパン株式会社と共同開発した、産業IoTプラットフォームThingWorx®のクライアント機能に対応し、MCU上で動作可能なソフトウェアを「Ubiquitous Network Framework ThingWorx Edge Package」として提供開始
2021年 2月	AI分野での協業のため、株式会社チームAIBOD（現 株式会社AIBOD）と資本・業務提携
2021年 4月	株式会社イー・アンド・デイと共同開発した車載システムソフトウェア開発用シミュレーター「GSIL」の販売を開始
2021年 5月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が5,000万本を突破
2022年 1月	見積もりプロセスの可視化とナレッジシェアツールを提供する株式会社Engineerforceと資本・業務提携
2022年 3月	組込みシステム開発での技術力と実績を持つ株式会社グレースシステムと資本・業務提携
2022年 5月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が6,000万本を突破
2022年 6月	IoT製品向け組込みソフトウェアのオールインワンパッケージ「Ubiquitous RTOS IoT Enabler」の提供を開始
2022年 6月	製造業向けビジネスプラットフォーム「HEXAGON」を発表
2022年 9月	ECU制御ソフトウェア開発者向け学習パッケージ「GTrainer」の提供を開始
2023年 3月	次世代通信プロトコル「Ubiquitous QUIC」の提供を開始
2023年 3月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が7,000万本を突破
2023年 6月	「耐量子暗号」に関する研究開発活動を開始
2023年 6月	IoT製品向けに最適化されたデータ管理機能を実現する「Ubiquitous RTOS IoT Enabler for DBMS」を提供開始
2023年10月	スマートホーム規格「Matter」と「ECHONET Lite」とのブリッジ機能を提供開始
2023年11月	マルチOS向け環境「SafeG64」とTEE（Trusted Execution Environment）の共存技術を開発
2024年 3月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が8,000万本を突破
2025年 5月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が9,000万本を突破
2025年11月	IoT製品のセキュリティを高める耐量子暗号への対応を低価格マイコンで実現
2025年12月	サイバーセキュリティ対応の支援サービス分野でITマネジメント・コンサルティング株式会社と業務提携
2026年 1月	経済産業省「情報セキュリティサービス基準」に適合し、独立行政法人情報処理推進機構が公開する「情報セキュリティサービス基準適合サービスリスト」に掲載
2026年 2月	「Ubiquitous QuickBoot」の累計出荷数が1億本を突破
2026年 2月	セキュリティ製品群の価値向上及び市場展開の強化を目的として株式会社アーティファクトと業務提携
2026年 5月	一般社団法人量子フォーラムに加盟
2026年 5月	We-Fuzz Inc.のIoT・組込み機器向け次世代セキュリティ検証ツール「Penzzer」の販売を開始

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社 2 社により構成されております。

製造業のお客様が必要とするテクノロジーとサービスを提供する企業として、IoT機器向けの各種ネットワーク製品、セキュリティ製品、データ管理の効率化に寄与する高速なデータベース製品、OSの高速起動を実現するソフトウェア製品等の自社開発による組み込みソフトウェア製品と、海外輸入によるBluetooth、BIOS、通信関連製品、ソフトウェア解析・開発効率化ツール、セキュリティ製品等の販売及び製品に関連したサポートサービス、エンジニアリングサービス、データコンテンツのライセンス販売等を提供しております。

また、当社グループである株式会社グレースシステムでは、組み込みソフトウェア等各種ソフトウェアの設計、開発及び自社開発によるプリンタ関連製品と音声コード製品（大量の文字列情報を格納可能な 2 次元コードの技術を活用した製品）の販売等を、株式会社ライトストーンでは、統計・数値データ解析ソフトウェアの販売等を行っております。

なお、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第 5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

#### (1) 当社グループの主要製品・サービス

当社グループの主要なソフトウェア及びサービスをセグメント別に以下に示します。

##### ソフトウェア事業

##### a. ソフトウェアプロダクト領域

カテゴリ	製品・サービス名	概要
Linux/Android高速起動	Ubiquitous QuickBoot	特許技術に基づく革新的な仕組みにより、組み込み機器やシステムの起動時間を大幅に短縮するためのソフトウェアソリューションです。 LinuxやAndroidを搭載した機器が電源ONから瞬時に利用できることで、ユーザー満足度を高めるとともに、待機電力ゼロの完全電源OFFを可能にすることで、省エネルギーと環境負荷低減を両立します。
デジタルコンテンツ保護	Ubiquitous DTCP (注) 1 . Ubiquitous HDCP (注) 2 . Ubiquitous DLNA (注) 3 .	車載機器及びデジタル家電等で要求されるデジタルコンテンツ保護を実現するためのDTCP規格に準拠したソフトウェアライブラリです。 車載機器及びデジタル家電等で要求されるデジタルコンテンツ保護を実現するためのHDCP規格に準拠したソフトウェアライブラリです。 DLNAガイドライン (2009年 8 月版) に基づきDLNA対応機器の開発に必要な各種の技術コンポーネントを取り揃えたソフトウェア開発キットです。コードサイズが非常に小さいため無線LAN などの通信モジュールに内蔵した形での提供も可能となっており、デジタル TVなどの家庭用電化製品やスマートフォンのみならず、車載インフォテインメント機器 (カーナビ、オーディオディスプレイ) 等のDLNA対応にも効果を発揮します。

カテゴリ	製品・サービス名	概要
セキュリティ	Ubiquitous TLS (注) 4 . Ubiquitous Securus Ubiquitous TPM (注) 5 . Security Edge Trust	IoT機器の通信をセキュアに行うためのセキュリティプロトコルを組み込みデバイスのリソースに最適化して提供するものです。 IoT機器に組み込まれるデバイス固有の証明書や電子鍵情報などの秘匿データを保護して、セキュアなシステムを実現します。 コンピュータの信頼性と安全性を高める国際業界標準規格を制定する業界団体「Trusted Computing Group (TCG)」が策定したTPMを利用するためのソフトウェアライブラリです。 IoT機器をプロダクトライフサイクル全般に渡ってセキュアに管理する仕組みとサービスを外部パートナーのソリューション含めて包括的に提供します。
シミュレーションツール	GSIL	GSILは、車載ECUソフトウェア開発向けのシミュレーター (SILS) です。ハードウェアを必要とせず、PC上でシミュレーションを行うことで、アプリケーションのテストやデバッグ、検証時間を効率的に短縮できます。
通信	Ubiquitous Network Framework Ubiquitous QUIC Ubiquitous WPAサブリカント Ubiquitous WPS Ubiquitous Wi-Fi Direct Ubiquitous Miracast™ Solution	インターネット標準の通信プロトコルであるTCP/IPを、組み込み機器向けに最適設計したもので、省メモリでの実装が可能な「小ささ」、非力なCPUでも動作する「軽さ」、また効率よく通信する「速さ」を実現したものです。 様々なインターネット通信で利用が増えている通信プロトコル「QUIC (クイック)」を組み込み機器やIoTデバイスなどのクライアント機器で利用できるように開発したソフトウェアライブラリです。 WPAサブリカントは、Wi-Fi通信の秘匿性を高めるために使用されるソフトウェアです。 WPSは、複雑なWi-Fi設定を容易にするためのものです。 Wi-Fi Directは、無線LAN機器間を直接、簡単に接続するためのものです。 Miracastは、ワイヤレス環境でのリモートディスプレイ接続のためのものです。  はWi-Fi Allianceが策定した無線LANの接続や暗号化等に関する規格に準拠して開発されたミドルウェアとなります。
スマートホーム	Ubiquitous ECHONET Lite Ubiquitous Wi-SMART	スマートハウス向けのホームネットワーク用プロトコルとしてエコネットコンソーシアムが策定した通信規格に準拠して開発されたミドルウェアとなります。この規格に準拠したスマートメーターやエネルギー管理関連機器間でのユニバーサルな制御が可能になります。 Wi-SMARTは、スマートメーターとエネルギー管理機器との通信に用いられる国際無線通信規格「Wi-SUN」に準拠して開発されたミドルウェアです。

カテゴリ	製品・サービス名	概要
組込みミドルウェア	GR-USB GR-FILE, GR-FILE/ex GR-SD	組込み向けUSB/HOST、DEVICE対応のミドルウェアです。 組込み向けFATファイルシステム及びexFAT対応のファイルシステムです。 組込み向けSDコントローラ対応のSDドライバです。
データベース	Ubiquitous DeviceSQL	DeviceSQLは、世界最小、超高速なデータベースエンジンを兼ね備えた、ローエンドからハイエンドまで全ての製品ラインに最適なデータ管理機能を提供する組込み向けのデータベースです。
OS	TOPPERS-Proシリーズ	TOPPERS-Proシリーズは、NPO法人TOPPERSプロジェクトが開発したオープンソースカーネル「TOPPERS/ASP」をベースに、当社が開発し提供するリアルタイムOSです。

カテゴリ	製品・サービス名	概要
音声コード	Uni-Voice (ユニボイス)	JAVIS (ジャビス: 日本視覚障がい情報普及支援協会) が開発した 2 次元コードで、大量の文字列データ等を格納することができます。 「音声コードUni-Voice」には専用アプリ (Uni-Voice アプリ) で読み上げができる文字列データ (日本語、多国語) を格納した「文書コード」、地図にて固定ルートの案内が可能な「NAVI コード」、施設位置データを表示する「SPOT コード」の 3 種類があります。
コード関連製品	GR-QR GR-BARCODE GR-DataMatrix	QRコードのエンコード(生成)及びデコード(読取)ライブラリ製品です。 1次元バーコードをエンコード(生成)及びデコード(読取)するためのライブラリ製品です。 DataMatrixコードをエンコード(生成)及びデコード(読取)するためのライブラリ製品です。
プリントシステム	GR-ADK GR-PDK GR-PDK/X GR-SETUP GR-MergePrint gXDF (ジグディフ) GR-PDK EMFファイリング	パソコン用の印刷アプリケーション開発のためのツールです。 GDIプリンタードライバ開発者を応援する開発キットです。 XPSプリンタードライバ開発者を応援する開発キットです。 プリンタードライバ、言語モニター、ポートモニター、デバイスドライバの専用インストーラー/アンインストーラーを作成するための開発ツールです。 流し込み印刷の実現を容易にするライブラリです。 印刷環境を問わず、XPSファイル出力やPDFファイル出力からXPSファイル変換や編集など様々な機能を実現します。 EMFプリンタードライバ開発者を応援する開発キットです。

- (注) 1. DTCPIは、DTLAIにより規格化されたコンテンツ保護規格です。
2. HDCPIは、ディスプレイや映像端末に対してHDMIやDVIなどを経由したデジタルコンテンツの送信を行う際のコピーガードに対応したリンクプロテクション技術であり、DCPIにより規格化されたコンテンツ保護規格です。
3. DLNAは、Digital Living Network Allianceの略であり、パソコンやデジタル家電機器をネットワークでつなぐ際の約束事をいいます。
4. TLSは、インターネット上で情報を暗号化して送受信するプロトコルの一つであり、SSL3.0を基に改良が加えられて標準化されたものです。
5. TPMは、コンピュータの信頼性と安全性を高める国際業界標準規格を制定する業界団体「Trusted Computing Group (TCG)」が策定した耐タンパ性に優れたセキュリティモジュールの規格です。

b. ソフトウェアディストリビューション領域

海外メーカー製ソフトウェアの輸入販売、テクニカルサポート及びカスタマイズを行っております。下表はその中で主要となる製品です。

カテゴリ	製品・サービス名	概要
ワイヤレス通信	Blue SDK	OpenSynergy社製のBluetoothプロトコルスタックであり、世界標準規格の近距離無線通信技術「Bluetooth」を実現するために開発されたソフトウェアです。
BIOS	InsydeH20	Insyde Software社製のBIOSであり、従来のBIOS (Basic Input/Output System) を置き換えるために開発された新技術「EFI/UEFI」仕様を実装した、C言語ドライバベースの次世代BIOSです。
ミドルウェア	HE-NET HE-CRYPTO HE-FILE Reliance Nitro	TUXERA社製のMISRA準拠TCP/IPプロトコルスタックです。高い品質、信頼性及びパフォーマンスを実現します。 リソース制約の厳しい組込み機器に、改ざんチェックや暗号化などの高度なセキュリティ機能を容易に実装できる暗号ライブラリです。 少ないIROM/RAMフットプリントで動作するように設計されたファイルシステム製品です。 高速性かつ突然の電源断の場合でもファイルデータとディレクトリ情報を100%保護する高信頼性を兼ね備えた新しい次世代型ファイルシステムです。
開発支援ツール	CodeSonar	AdaCore社製のソフトウェア静的解析ツールです。ソースコードの不具合や脆弱性を高精度で検出します。
セキュリティ検証ツール	beSTORM	あらゆるプロトコル、プラットフォームAPI、機器へのファジングとペネトレーションテストを実施するセキュリティ検証ツールです。

c. ソフトウェアサービス領域

組込みソフトウェア等各種ソフトウェアのエンジニアリングサービスに関し、米国Gracenote社と協業して音楽関連のデータコンテンツのライセンスの提供を行っております。

アナリシスソフトウェア事業

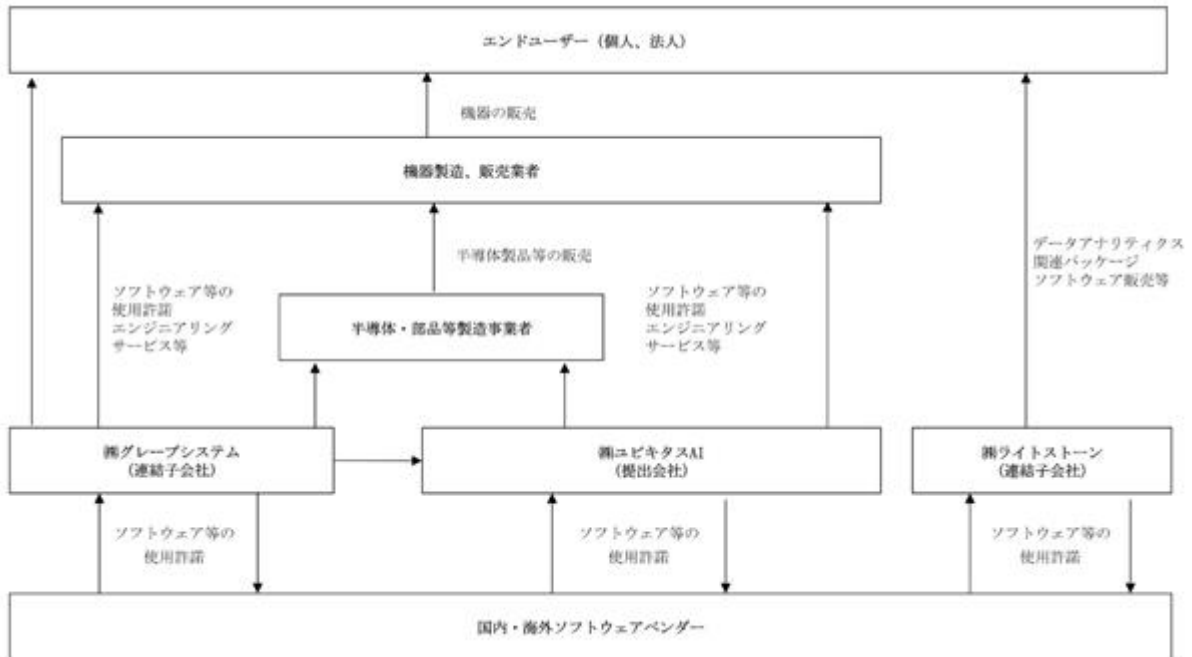
データアナリティクス領域

株式会社ライトストーンにおいて、全国の大学・高専などの教育機関、政府系研究機関、企業の研究開発・調査部門等に、「Origin」、「Stata」等研究開発で使用される統計・数値データ解析等の科学技術系ソフトウェアの輸入販売等を行っております。

(2) 当社グループの収益モデル

当社グループの収益モデルについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

なお、事業の系統図は、下記のとおりであります。



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社ライト ストーン (注)2.3.	東京都千代田区	24,500	アナリシスソ フトウェア事 業	100	役員の兼任あり。
(連結子会社) 株式会社グレー プシステム (注)3.	神奈川県川崎市 中原区	98,500	ソフトウェア 事業	100	当社顧客の一部の 開発業務を受託。 役員の兼任あり。

(注)1. 主要な事業の内容欄にはセグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 株式会社ライトストーン及び株式会社グレープシステムの売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)は連結売上高に占める割合が10%を超えております。

##### 株式会社ライトストーン

主要な損益情報等	(1) 売上高	931,671 千円
	(2) 経常利益	51,465 千円
	(3) 当期純利益	33,565 千円
	(4) 純資産額	623,819 千円
	(5) 総資産額	756,721 千円

##### 株式会社グレープシステム

主要な損益情報等	(1) 売上高	1,021,420 千円
	(2) 経常利益	105,692 千円
	(3) 当期純損失( )	17,957 千円
	(4) 純資産額	80,299 千円
	(5) 総資産額	439,360 千円

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営基本方針

当社グループは、「All for wonderful life」というスローガンの下、私たちの収益の源泉となるまだ見ぬ宝物である革新的なアイデア、未来を照らす技術シーズ、自社及び他社による有形無形の製品、そして、これらを見つけ、生み出すタレントなどテクノロジーに関わる全てを探し続けることで社会の進歩に貢献することを経営基本方針としております。

#### (2) 中長期的な会社の経営戦略、目標とする経営指標

当社グループは、新たな中期経営計画を策定し、2025年6月26日に「中期経営計画（2026 - 2028年度）」を公表しております。

当社グループにおける事業環境は、100年に一度の変革期に顧客や事業・社会環境が大きく変化し、テクノロジー・インフラが加速的に進化する状況において、製造業顧客を基盤とし、新たなコピキタスAIに向けBig Changeを目指しております。

この中期経営計画においては、オーガニック領域（既存事業による売上成長）とインオーガニック領域（連続的M&Aによる売上成長）による成長を志向し、オーガニック領域においては、毎年5%成長を見込むとともに、安定的な成長キャッシュフロー創出を目指します。インオーガニック領域においては、年度ごとの目標設定は行わず、M&Aによる売上成長を見込んでおります。

オーガニック領域は、Operational Excellence（生産性向上）、Sales Enablement（営業力強化）、Group Synergy（アップセル/クロスセル）、Steady Growth（安定成長）による重点施策を推進することで、High Profitability（高収益化）の実現を目指し、未来への投資資金の創出を図ってまいります。

インオーガニック領域は、次なる飛躍の成長に向け、戦略的に補充・拡充すべき事業領域（IoT関連事業、Big Data/AI関連事業、IT関連）について、案件ごとにバリュエーションやシナジーを考慮しながら、積極的に連続的M&Aを実行してまいります。

財務戦略は、企業価値の最大化に向けて、次の重点施策を推し進めてまいります。

- ・ 既存事業の収益性及びキャッシュフロー基盤を強化しつつ、成長性の高い領域及びM&Aへ投資。
- ・ 健全なバランスシートを礎に、次の成長に向けた積極的ファイナンス戦略と成長投資実行を目指す。
- ・ 本中期経営計画は「基盤整備の3年」として、会社体制整備のための大幅な支出なども見込む。
- ・ 「売上高」及び「EBITDA（調整後営業利益）」を重要収益指標として経営・財務戦略を推進していく。
- ・ 下期、特に2月及び3月に集中して売上・利益が計上される収益サイクルから、より平準化され安定的な売上・利益計上サイクル構築の実現を目指す。

以上、オーガニック及びインオーガニックによる成長戦略及び財務戦略を組み合わせ、CAGR10%程度の成長を実現しつつ、「中期経営計画（2026 - 2028年度）」の目標達成と、その後の事業成長を加速させる次フェーズ（High Growth Phase）への円滑な移行を図ってまいります。

### (3) 対処すべき課題

#### 当社グループのソフトウェア分野における事業強化に関する課題

当社グループは、メーカー、商社、受託開発のバランスの取れた事業ポートフォリオを展開し、主要顧客である電子・電気機器を製造・開発する大手企業の企画・開発・設計部門から学術・政府機関まで、幅広く強固な顧客基盤を有しています。

当社グループのソフトウェア分野における事業は、製品・サービス別に自社製品の開発・販売、海外製品の販売、統計・数値データ解析ソフトウェアの販売及び受託開発という4つの事業ポートフォリオで構成されております。

自社製品の開発については、開発力に加え、販売力のある製品企画の強化、海外製品の販売及び統計・数値データ解析ソフトウェアの販売については、製品ラインアップの強化、受託開発については、開発力の強化が必要となります。

加えて、販売機会を増やすため、単に製品の販売にとどまらず、常に変化する顧客のニーズを把握し、対応するための開発業務が必要となり、この体制を強化する必要があります。

これに対しては、経験者の中途採用による技術力向上、さらにM&Aによる人材・事業機会の獲得及び強化により、当社グループ全体の技術力強化と、開発力・製品企画力の強化に取り組んでまいります。

#### 企業グループとしての運営に関する課題

当社は、2024年3月期にM&Aを2社、2025年3月期に子会社の吸収合併を実現した結果、事業規模及び従業員数が増加し、急激に業容が拡大しております。

企業グループとしての連携や管理部門の強化、特に買収した企業のPMI (Post Merger Integration)、内部管理体制の強化、コストの最適化に取り組む必要があります。

これに対しては、グループ経営の管理機能の強化及び管理部門人材の採用並びにグループ人事制度の構築等により、コミュニケーションの円滑化やコストの最適化など、グループ全体の運営効率化を進めてまいります。

#### 販売体制の強化に関する課題

当社グループが取扱う製品・サービスは、技術的難易度や専門性が高い製品・サービスが多く、顧客との技術的なコミュニケーションが販売における重要なポイントとなります。

また近年、ワークスタイル・事業機会は変化しており、営業活動やマーケティング活動の手法もこの変化に対応したアプローチが必要となっております。

これに対しては、顧客データに基づいたデジタルマーケティング施策を強化し、顧客ニーズを掘り起こし、当社グループが取扱う製品・サービスの強みを訴求することにより、新規引合いの獲得を推進してまいります。加えて、情報システムの整備による効率的な営業活動環境の整備、営業部門の人員増により、案件や顧客の確保を実現してまいります。

#### 品質マネジメントの強化に関する課題

インターネットやIoTの普及に伴い、様々な電気・電子機器がネットワークに繋がることで、サイバー攻撃のリスクが深刻な問題となっております。

このため、電子・電気機器製造・開発における適切な品質マネジメント及びサイバーセキュリティ対策を講ずることが必要とされています。

当社グループも、顧客の製品・サービス開発に使用するソフトウェア製品・サービスを提供していることから同様の対策が求められ、取引条件に含まれるようになってきております。

これに対しては、品質保証体制及びサイバーセキュリティ対策体制を整備・強化し、顧客の取引条件に合致するよう努めてまいります。

#### ガバナンスの強化に関する課題

積極的なM&A等により事業規模が拡大している当社グループが、継続的、健全かつ効率的に成長するためには、ガバナンスの強化が重要な課題であります。

これに対しては、社外取締役を複数名体制とし、社外の目と知見による取締役会の監督を実施しております。引き続き、この体制を維持するとともに、内部管理体制の面でも、財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの適切な運用、内部監査による定期的なモニタリングの実施等に取り組んでまいります。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組みは、次のとおりであります。  
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) サステナビリティ全般に関するガバナンス及びリスク管理

当社グループは、2024年12月に次のとおり「サステナビリティ方針」を策定いたしました。

#### ・サステナビリティ方針

「最適なソフトウェアテクノロジーを、あらゆるところに。」のミッションのもと社会を進化させ、全てのステークホルダーの皆様が豊かな未来を築いていくことに貢献いたします。その実現に向けて、私たちは多様な専門性を持った人材・組織を育み、未来の社会を見据えた広い視野で世界を見つめ、持続可能な社会の実現に貢献し続けます。

そのために、従業員、そしてお客様、お取引先、エンドユーザーの皆様など、全てのステークホルダーを尊重するとともに、より良い未来を協創してまいります。また、気候変動などの地球環境問題に対しても、事業を通じたカーボンニュートラルに向けた取組みによってリスクの抑制を行い、持続可能な社会の発展に向けて貢献してまいります。

#### ・マテリアリティ

当社グループのサステナビリティを推進するために必要な「人材」「技術」「革新」「信頼」「安全」の5つのマテリアリティを特定いたしました。

**人材：**当社グループは、事業の成長と革新の原動力は「人材」にあると考えております。高度な専門性を持つエンジニアやスタッフを育成し、全員が各自の才能を最大限に発揮できる環境づくりを推進いたします。これにより、絶えず変化するテクノロジー分野において持続可能な成長と新たな価値創造を実現し、また当社に関わる全ての人々の幸せを実現してまいります。

**技術：**当社グループは、業界トップクラスのソフトウェアテクノロジーを基盤とし、独自の技術力でネットワークや組込みソフトウェアの分野で革新的な製品を提供しております。技術の卓越性は、顧客のニーズに応えるだけでなく、業界全体の標準を引き上げ、社会の発展に貢献してまいります。

**革新：**常に「革新」を追求する姿勢が当社グループのビジネスモデルの核であります。新たな技術シーズの発掘や既存の枠組みを超える発想により、従来にないソリューションを創出いたします。これにより、当社グループは環境変化に柔軟に対応し、新たなビジネスチャンスを開拓してまいります。

**信頼：**信頼は全てのステークホルダーとの持続的な関係構築の基盤であります。当社グループは、透明性の高い経営と堅牢なセキュリティ対策を通じ、顧客・パートナー・社会からの信頼を獲得することに注力してまいります。

**安全：**急速にデジタル化が進む現代社会では、「安全」が最も重要なマテリアリティの一つであります。当社グループは、最新のサイバーセキュリティ技術やリスク管理体制を導入することで、情報漏洩やシステム障害などのリスクを低減し、安心して利用いただける製品・サービスの提供に努めております。

#### ガバナンス

当社グループは、サステナビリティ関連のリスク及び機会を監視・管理するためのガバナンスの過程、統制及び手続を行うために、2024年度より代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置しました。サステナビリティ委員会は、取締役会の監督・指示のもと、事業に係るサステナビリティを巡る課題への対応やリスク管理などを行い、また、年1回以上、取締役会に報告・諮問をすることで経営の実効性を確保しております。

当社グループは、コーポレート・ガバナンスを「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等」に記載のとおり体制で企業活動を行っております。経営の効率性、健全性及び透明性を確保し、企業価値の継続的向上と社会からの信頼獲得のために企業活動を規律する枠組みであると考えております。社会にとって価値ある企業となるために、今後もコーポレート・ガバナンスの維持・強化を図ってまいります。

#### リスク管理

当社グループは、経営に関わる全てのリスク管理を、取締役会の監督のもと、包括的に実施しております。各種リスクに対しては、現行のリスク管理プロセスに基づき、適切な対策の協議・決定を行っております。

サステナビリティに関するリスク及び機会については、気候変動への対応、サイバーセキュリティ、IoT関連法規制・経済安全保障対応、技術革新、サプライチェーン及び人的資本等を重要な論点として認識しており、サステナビリティ委員会において識別、評価及び管理の高度化を進めております。特に、2026年度から2028年度までの中期経営計画において注力領域と位置づけるIoTセキュリティ分野においては、国内外の規制強化や顧客ニーズの高度化を重要な機会と捉える一方、技術変化への対応遅延、品質・セキュリティ事故、M&A・PMIに伴う統合リスク等を主要なリスクとして認識しております。

#### 戦略

当社グループは、サステナビリティ方針とそれを受けたガバナンス体制のもと、持続可能な社会の実現と企業価値向上の両立に向け、次の取組みを重点的に推進してまいります。

また、2025年9月に発足した新たな経営体制のもと、「技術」を企業価値向上の中核と位置付け、持続的な成長と社会的意義の両立を目指す方針を明確化しております。

- ・製造業顧客を基盤とした既存事業の安定成長と高収益化

自社製品、海外製品及び受託開発の3つのアプローチを通じて顧客の開発プロセス課題を全方位で支援し、オーガニック領域では年率5%程度の成長を目指しつつ、将来の高成長領域に対する投資原資の創出を図ってまいります。

さらに、自社製品「Ubiquitous QuickBoot」は2026年2月に累計出荷本数1億本を突破し、車載、スマートデバイス、産業機器及び医療機器等へ採用領域・リージョンが拡大しております。今後は海外展開及びアライアンス拡大を通じて、ライセンス収益機会の更なる拡大を図ってまいります。

- ・IoTセキュリティ領域を起点とした成長事業の拡大

当社グループは、デバイスセキュリティ及びデバイス周辺のサイバーセキュリティに関する長年の知見を基盤として、セキュリティ検証ツール・サービス、SBOM、静的解析、暗号関連技術等の提供を強化し、IoTセキュリティに対する法規制対応・コンサルティング需要の取り込みを進めてまいります。中長期的には、AI及びBig Data領域との連携を深め、CPS構築に必要な要素の拡張を目指してまいります。

また、IoTセキュリティ分野では、耐量子暗号への対応を低価格マイコンで実現するソリューション開発、新たな業務提携を通じたサイバーセキュリティ対応支援サービスの拡充及び当社のセキュリティ検証サービスに関する経済産業省認定の取得等を通じて、法規制対応力及び高信頼性サービスの提供力を高めております。

- ・グループシナジー創出と成長投資の推進

各社の強みを組み合わせた営業活動連携、販促・デジタルマーケティング強化、トータルソリューション提案及び組織横断アサインを通じ、グループシナジーの創出を図っております。また、連続的なM&A及びPMIを通じて、IoT関連、Big Data・AI関連及びIT関連のケイパビリティ拡充を進めてまいります。

2025年11月には金融機関より創業以来初となる計10億円の資金調達を実施いたしました。耐量子暗号技術の製品化に向けた成長投資、サイバーセキュリティ製品のラインアップ強化に伴う人員採用、QuickBootの海外展開を見据えたアライアンス拡大、並びにM&A子会社のPMI推進、シナジー発現の追求、営業組織改革、営業力強化及びグループ経営を担う本社コーポレート部門の刷新等の経営基盤整備・強化に活用していく方針であります。

- ・中長期事業計画へのサステナビリティ視点の織込み

2026年度から2028年度までを「基盤整備の3年」と位置づけ、内部統制・PMI、製品の海外展開、成長領域の特定と注力、新規事業の立ち上げ等を進めることで、グループ全体が一体となったサステナビリティ推進体制を構築してまいります。

#### 指標及び目標

当社グループは、サステナビリティ関連の指標及び目標に関し、サステナビリティ委員会において審議・検討を進めており、段階的に設定していく方針であります。

また、2050年カーボンニュートラル達成に向けてエネルギー使用量の削減に取り組んでおります。その一貫である事業の最適化のための拠点統廃合により、2025年度の温室効果ガス削減量は85.27tCO<sub>2</sub>eと2021年度比22.6%の削減となりました。

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度/ 2021年度
Scope1	0tCO <sub>2</sub> e	0tCO <sub>2</sub> e	0tCO <sub>2</sub> e	0tCO <sub>2</sub> e	0tCO <sub>2</sub> e	-
Scope2	110.22tCO <sub>2</sub> e	89.28tCO <sub>2</sub> e	85.64tCO <sub>2</sub> e	83.00tCO <sub>2</sub> e	85.27tCO <sub>2</sub> e	77.4%
Scope1 + 2	110.22tCO <sub>2</sub> e	89.28tCO <sub>2</sub> e	85.64tCO <sub>2</sub> e	83.00tCO <sub>2</sub> e	85.27tCO <sub>2</sub> e	77.4%

## (2) 人的資本（人材の多様性を含む）に関する事項

人的資本（人材の多様性を含む）に関する戦略、従業員給与等の決定方針並びに指標及び目標については、「第4 提出会社の状況 5 従業員の状況等 (1) 人材戦略に関する基本方針等」に、提出会社の平均年間給与の対前事業年度増減率その他従業員の状況については、「同 (2) 従業員の状況」に記載する方針であります。

### 3【事業等のリスク】

当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を以下に記載しております。

また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。

当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、当社の株式に関する投資判断は、本項及び本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、文中における将来に関する事項は、別段の記載がない限り、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### 技術の陳腐化について

当社グループは、電子・電気機器開発に必要な自社開発のソフトウェア製品と海外メーカーの開発したソフトウェア製品を多様な分野に展開しておりますが、これらの技術革新のスピードは速く、製品の高機能化も進んでおります。

当社グループといたしましては、技術の進展に鋭意対応していく方針ですが、当社グループが想定していない新技術の台頭、普及により事業環境が急変した場合、必ずしも迅速に対応できない可能性があります。

また、競合他社が当社グループを上回る技術を開発した場合には、当社グループの技術が陳腐化する可能性があります。これらの状況に迅速に対応するため、多額の研究開発費用が発生する可能性もあります。

上記のような事象が発生した場合には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競争の激化について

当社グループは、電子・電気機器開発に必要な自社開発のソフトウェア製品と海外メーカーの開発したソフトウェア製品を取り扱っております。近年は、LinuxやAndroid、FreeRTOS等の無償で利用できるソフトウェアプラットフォームが拡大し、また半導体メーカーが半導体デバイスと開発に必要なソフトウェアを組み合わせる包括的に提供する傾向にあり、特にミドルウェア製品群は、これらとの競争が激化しております。当社グループは、今後も競争力の維持強化に必要な製品ラインアップの強化、無償のソフトウェアでは得られない品質保証、技術サポートの提供や脆弱性へのリスク対応等による差別化を図ることで競争力の維持強化に向けた様々な取組みを進めてまいりますが、競争が優位に進められず、当該市場で十分なシェアを獲得できない場合には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

#### 新規事業について

当社グループでは事業拡大を行う上で、当社グループ独自の技術やノウハウを活かした新規事業や製品を提供することが必要であると認識しております。このため、新規事業や製品への投資については、その市場性等について十分な検証を行った上で投資の意思決定を行っておりますが、市場環境の変化や不測の事態により、当初予定していた投資回収を実現できない可能性があります。

また、新規事業や新規サービス・製品の立ち上げには、一時的に追加の人材採用、研究開発等が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 海外事業展開について

当社グループは今後グローバルな事業展開を予定しておりますが、海外市場への事業進出には、各国政府の予期しない法律や規制の変更、社会・政治及び経済情勢の変化、異なる商慣習による取引先の信用リスク、競合企業の存在や知的財産権の取扱方法の違い、為替変動等の要因により、事業展開及びその成果が当初予測と異なる場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 知的財産権について

当社グループは自社開発したソフトウェアについて著作権を有しておりますが、第三者が当社グループの著作権を侵害することなく、当社グループのソフトウェアと同様の機能を実現した場合、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。また、当該第三者が特許権を取得した場合、当社グループが損害賠償義務を負担する可能性があります。加えて、当社グループが特定分野でのソフトウェア開発業務遂行のため、他社よりソフトウェアのソースコード開示を受けることが稀にありますが、この場合、当該ソースコードの開示を理由に当該成果物以外の当社グループ著作物に対する著作権侵害の訴訟等を受ける恐れがあります。

#### ソフトウェアの不具合による顧客の損失について

当社グループのソフトウェアの不具合による顧客の損失については、契約上、当社グループの損害賠償額の上限を当社グループが収受した契約対価に限定するように努めておりますが、このような事態が発生した場合、直接的に売上高の取消による損失が発生するのみならず、信用失墜により当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

#### DTLAからの高度機密情報の提供について

当社グループは、DTCPのライセンス管理団体であるDTLA(Digital Transmission Licensing Administrator)に加盟し、同団体からDTCP仕様に関する高度機密情報の提供を受けております。当該情報は、DLNAやIPTVのコンテンツ保護における根幹の技術情報であり、当社グループ製品への統合により競争力を高めることができます。しかしながら、DTLAとの約定により、当該情報を当社グループの責任により漏洩した場合、最大8百万米ドルの制裁金を請求される可能性があります。

#### DCPからの高度機密情報の提供について

当社グループは、HDCPのライセンス管理団体であるDCP(Digital Content Protection)に加盟し、同団体からHDCP仕様に関する高度機密情報の提供を受けております。当該情報は、Miracast等と合わせて必要とされるコンテンツ保護における根幹の技術情報であり、当社グループ製品への統合により競争力を高めることができます。しかしながら、DCPとの約定により、当該情報を当社グループの責任により漏洩した場合、最大8百万米ドルの制裁金を請求される可能性があります。

#### ライセンス契約について

当社グループは、顧客との間で、当社グループソフトウェアを搭載した半導体・製品等の販売本数に応じて製造ロイヤルティを収受する契約を締結しております。従って、当社グループの売上高は、顧客の半導体・製品等の販売本数に影響を受けることとなります。顧客の半導体・製品等の販売が好調であった場合、予想外の収益を計上できる可能性があります。一方、顧客の新製品の発売時期が遅延した場合や当初の販売見込みを下回った場合、顧客の販売戦略に変更が生じた場合等においては、当社グループの収益が低下する可能性があります。

#### 仕入先との契約更新に係るリスク

ソフトウェアディストリビューション領域及びデータアナリティクス領域では、国外のソフトウェアベンダーの製品の輸入販売を行い、最先端の技術・製品等を有する海外のソフトウェアベンダーを仕入先としております。これらの仕入先とは販売代理店契約等を締結し、良好な関係を維持しておりますが、仕入先が第三者からの買収や代理店政策の見直しがあった場合は、商権に変更が生じる等、業績に影響を与える可能性があります。

#### 契約更新に係るリスク

米国Gracenote社の音楽データベースに関するライセンス契約を締結し、一定の収益を計上しております。しかしながら、相手先企業の経営方針の変更等、当社がコントロールし得ない何らかの事情によりこの契約が更新されなかった場合、当社グループの業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 経済状況・市場動向が影響するリスク

##### ）自動車業界の動向が影響するリスク

当社グループの事業収益は自動車業界関連が大部分を占めております。そのため、自動車の販売台数が減少した場合には、車載情報端末を中心とした製造ロイヤルティ収益に影響を及ぼす可能性があります。

また、自動車関連企業が収益減少のために開発投資ヘリソースを割かない場合、ソフトウェア開発支援ツール、各ソフトウェア開発キット及び関連する開発委託業務に影響を及ぼす可能性があります。

##### ）経済全般の停滞が影響するリスク

景気低迷による顧客の機器生産台数の低迷により、製造ロイヤルティ収益へ影響を及ぼす可能性があります。

また、収益低下懸念による費用圧縮に伴う新規開発投資の抑制により、ソフトウェア開発支援ツール、SDK及び関連する開発委託業務へ影響を及ぼす可能性があります。

## 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

#### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

##### a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ248,462千円増加し、3,698,939千円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ733,802千円増加し、1,788,230千円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ485,339千円減少し、1,910,709千円となりました。

##### b. 経営成績

当連結会計年度の業績は、売上高3,924,475千円（前連結会計年度比5.2%減）、営業損失201,117千円（前連結会計年度は96,498千円の利益）、経常損失213,688千円（前連結会計年度は92,889千円の利益）、親会社株主に帰属する当期純損失518,702千円（前連結会計年度は91,084千円の利益）となりました。

当社グループの報告セグメントは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」、「ソフトウェアサービス事業」及び「データアナリティクス事業」の4つを報告セグメントとしておりましたが、当連結会計年度より、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」及び「ソフトウェアサービス事業」を「ソフトウェア事業」として統合し、「データアナリティクス事業」を「アナリシスソフトウェア事業」に名称を変更した上で、2つのセグメントに変更しております。

これは、2025年6月に公表した「中期経営計画」（2026年 - 2028年）を踏まえて、事業セグメントについて改めて検討した結果、当社グループの事業戦略は、顧客のソフトウェアニーズに対して全方位的な支援を行うビジネスモデルに変革しており、当該事業戦略の実行のための組織体制の統合及び経営管理体制の見直しの実態を踏まえ、「ソフトウェア事業」及び「アナリシスソフトウェア事業」の2つの報告セグメントが適切であると判断したことによるものであります。

なお、各事業における収益の分解については、企業の実態に即し、財務諸表の利用者にとって有用な情報を提供することを目的として、財又はサービスの種類に基づき、従来どおりの区分に従って、「ソフトウェア事業」における製品・サービスとして、「ソフトウェアプロダクト領域」、「ソフトウェアディストリビューション領域」、「ソフトウェアサービス領域」とし、「アナリシスソフトウェア事業」における製品・サービスとして、「データアナリティクス領域」の4区分に分類しております。

「ソフトウェアプロダクト領域」は、組込みネットワーク、セキュリティ&リアルタイムOS関連製品、高速起動製品、データベース製品等の主に自社開発によるデバイス組込み用ソフトウェア等に関する製品・サービス領域であります。

「ソフトウェアディストリビューション領域」は、海外ソフトウェアの輸入販売及びテクニカルサポート等に関する製品・サービス領域であります。

「ソフトウェアサービス領域」は、組込みソフトウェア等の受託を中心とした各種ソフトウェアの設計、開発及びデータコンテンツのライセンス等に関する製品・サービス領域であります。

「データアナリティクス領域」は、統計・数値データ解析ソフトウェア等における海外ソフトウェアの輸入販売及びテクニカルサポート等に関する製品・サービス領域であります。

製品・サービス別の売上高は、以下のとおりであります。

製品・サービス別	当連結会計年度		前連結会計年度		増減率 (%)
	売上高 (千円)	売上割合 (%)	売上高 (千円)	売上割合 (%)	
ソフトウェアプロダクト領域	772,572	19.7	899,457	21.7	14.1
ソフトウェアディストリビューション領域	1,275,902	32.5	1,318,589	31.9	3.2
ソフトウェアサービス領域	944,330	24.1	1,005,769	24.3	6.1
データアナリティクス領域	931,671	23.7	914,973	22.1	1.8
合計	3,924,475	100.0	4,138,789	100.0	5.2

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は1,995,296千円となりました。当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、減少した資金は137,845千円（前連結会計年度は137,876千円の増加）となりました。これは主に、減損損失219,628千円、のれん償却額94,011千円により資金が増加した一方で、税金等調整前当期純損失433,316千円により資金が減少したことによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、減少した資金は62,570千円（前連結会計年度は23,157千円の増加）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出44,701千円、投資有価証券の取得による支出15,000千円によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、増加した資金は851,271千円（前連結会計年度は220,915千円の減少）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出148,729千円により資金が減少した一方で、長期借入れによる収入1,000,000千円により資金が増加したことによるものであります。

#### 生産、受注及び販売の実績

##### a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績を製品・サービス別に示すと、次のとおりであります。

製品・サービス別	金額（千円）	前年同期比（%）
ソフトウェアプロダクト領域	78,143	29.6
ソフトウェアディストリビューション領域	274,320	10.7
ソフトウェアサービス領域	867,802	1.8
データアナリティクス領域	100	97.0
合計	1,220,365	2.1

（注）金額は販売価格によっております。

b. 受注実績

当連結会計年度の受注状況を製品・サービス別に示すと、次のとおりであります。

製品・サービス別	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
ソフトウェアプロダクト領域	67,126	45.9	2,700	80.1
ソフトウェアディストリビューション領域	273,577	13.8	-	-
ソフトウェアサービス領域	866,463	0.5	37,962	142.0
データアナリティクス領域	100	97.0	-	-
合計	1,207,266	1.8	40,662	11.4

(注)金額は販売価格によっております。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績を製品・サービス別に示すと、次のとおりであります。

製品・サービス別	金額(千円)	前年同期比(%)
ソフトウェアプロダクト領域	772,572	14.1
ソフトウェアディストリビューション領域	1,275,902	3.2
ソフトウェアサービス領域	944,330	6.1
データアナリティクス領域	931,671	1.8
合計	3,924,475	5.2

(注)金額は販売価格によっております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 財政状態

(資産)

当連結会計年度末における資産は、3,698,939千円(前連結会計年度末比248,462千円増)となりました。これは主に、のれんが231,886千円、受取手形及び売掛金が83,981千円減少した一方で、現金及び預金が649,242千円増加したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債は、1,788,230千円(前連結会計年度末比733,802千円増)となりました。これは主に、長期借入金が679,905千円、1年内返済予定の長期借入金が171,366千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は、1,910,709千円(前連結会計年度比485,339千円減)となりました。これは主に、利益剰余金が518,702千円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は51.7%となりました。

b. 経営成績

・ソフトウェアプロダクト領域

当領域は、高速起動製品における国内外の車載機器関連及び海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティ売上、セキュリティ製品及びデータベース製品における産業機器の既存顧客からのロイヤルティ売上、並びに音声コード Uni-Voice（ユニボイス）製品における印刷関連の既存顧客から行政関連に伴うロイヤルティ売上を中心に、売上高772,572千円（前連結会計年度比14.1%減）となりました。この減少要因は、前連結会計年度に比べてUni-Voice（ユニボイス）製品の売上が増加したものの、当連結会計年度におけるセキュリティ & OS関連製品のロイヤルティ売上が大幅に減少したことにより、当領域全体としての売上が減少したことによるものです。

・ソフトウェアディストリビューション領域

当領域は、BIOS、Bluetooth、ソフトウェア解析・開発効率化ツール及びネットワークマネジメント等の海外製品における既存顧客からのロイヤルティ及び受託開発売上、セキュリティ検証ツール・サービスの既存及び新規顧客へのライセンス販売並びに受託開発売上を中心に、売上高1,275,902千円（前連結会計年度比3.2%減）となりました。この減少要因は、ネットワークマネジメント製品における既存顧客向けライセンス売上が前連結会計年度に前倒して計上されたこと、前連結会計年度に発生したモデルウェア製品の売上が当連結会計年度に発生しなかったことに加え、OSS検査ツールの代理店契約終了により売上が減少したことによるものです。

・ソフトウェアサービス領域

当領域は、既存顧客からの各種受託開発売上、データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス売上により、売上高944,330千円（前連結会計年度比6.1%減）となりました。この減少要因は、前連結会計年度と比べて、既存顧客における開発計画の変更等の影響により受託開発が減少したこと、並びに車載機器向け「YOMI」ライセンス売上が減少したことによるものです。

・データアナリティクス領域

当領域は、一般企業への化学系データベース及び画像解析ソフトの販売が増加したことにより、売上高931,671千円（前連結会計年度比1.8%増）となりました。

これらの結果、ソフトウェア事業は、売上高2,992,804千円（前連結会計年度比7.2%減）、販売用ソフトウェアに係る減価償却費62,064千円を計上したことなどにより、セグメント損失244,619千円（前連結会計年度は44,755千円の利益）、アナリティクスソフトウェア事業は、売上高931,671千円（前連結会計年度比1.8%増）、セグメント利益43,502千円（前連結会計年度比15.9%減）となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、以下のとおりとなりました。

（売上高）

当連結会計年度における連結売上高合計は3,924,475千円（前連結会計年度比5.2%減）となりました。

（売上原価、販売費及び一般管理費）

売上原価2,416,869千円（前連結会計年度比0.0%増）、販売費及び一般管理費1,708,723千円（同5.1%増）を計上いたしました。販売費及び一般管理費の主な内訳は、給料及び手当732,864千円（同8.4%増）、支払手数料344,998千円（同43.8%増）であります。

（経常利益）

経常損失213,688千円（前連結会計年度は92,889千円の利益）を計上いたしました。これは、主に営業損失201,117千円（前連結会計年度は96,498千円の利益）、営業外費用として支払手数料24,046千円（社内調査委員会による外部法律事務所等への調査関連費用）を計上した一方で、当該費用に係るD&O保険（役員等賠償責任保険契約）による保険金の支払いを受けたことから、受取保険金10,000千円を営業外収益として計上したためであります。

（特別損失）

特別損失219,628千円（前連結会計年度は18,037千円）を計上いたしました。これは、当社グループの連結子会社である株式会社グレープシステムの買収時に超過収益力を前提として計上したのれんについて、昨今の外部環境の変化により、来期以降の収益性が低迷する見通しとなったことから、のれんに係る減損損失137,875千円を計上しており、加えて、当社及び株式会社グレープシステムの固定資産についても、減損の兆候が認められたため、固定資産に係る減損損失81,753千円を計上したためであります。

（親会社株主に帰属する当期純利益）

将来の課税所得の見積り及び繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額（損）64,234千円を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は518,702千円（前連結会計年度は91,084千円の利益）となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

a. キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

b. 資本の財源及び資金の流動性

資金の流動性につきましては、中長期的な企業価値の向上を図る観点から、M&A等の成長戦略の所要資金確保、財務の健全性強化のための内部留保の積上げ、株主の皆様への利益還元への利益還元の拡充とのバランスを考慮することを基本としております。成長戦略に伴うM&Aや投資のための所要資金につきましては、グループ内での営業活動による自己資金や金融機関からの借入により調達しております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載のとおりであります。

## 5【重要な契約等】

(1) 米国Gracenote社とのライセンス契約

2000年より、米国Gracenote社のオフィシャルデベロップメントパートナーとして、Gracenote SDKの共同開発及びGracenote社の日本国内の顧客への開発サポートを内容としたパートナー契約を締結しております。

(2) DTLA加盟契約

2006年5月9日に、当社はDTLA(Digital Transmission Licensing Administrator)との間で加盟契約を締結し、DTCP仕様に関する高度機密情報の提供を受けております。当該情報は、DLNAやIPTVのコンテンツ保護における根幹の技術情報であります。

加盟料として年間当たり14千米ドルを支払っております。

なお、当該情報を当社グループの責任により漏洩した場合、最大8百万米ドルの制裁金を請求される可能性があります。

(3) 株式会社村田製作所との間における資本・業務提携に関する合意書

2012年12月11日に、当社は株式会社村田製作所との間で、デジタル家電、白物家電、ヘルスケア製品、自動車、ネットワーク対応センサー等、今後さらに幅広い機器に採用が期待される近距離無線関連の両社の製品及びサービスに関して、相互の顧客・潜在顧客に対する共同提案・販売促進活動及び技術・市場動向等に対する共同での検討活動を行うことで合意しております。

(4) DCP加盟契約

2013年4月15日に、当社はDCP(Digital Content Protection)との間で加盟契約を締結し、HDCP仕様に関する高度機密情報の提供を受けております。当該情報は、Miracast等と合わせて必要とされるコンテンツ保護における根幹の技術情報であります。

加盟料として年間当たり15千米ドルを支払っております。

なお、当該情報を当社グループの責任により漏洩した場合、最大8百万米ドルの制裁金を請求される可能性があります。

## 6【研究開発活動】

当社グループは、ソフトウェア事業及びアナリシスソフトウェア事業の2つのセグメントに区分しておりますので、研究開発活動につきましては、各セグメントについて記載しております。

### (1) 概要

当社の社名ユビキタスは「あらゆるところに遍在する」ことを表し、IoT（モノのインターネット）という言葉の普及とともに、あらゆるモノがインターネットにつながるために「小さく、軽く、速い」ソフトウェアを提供してまいりました。近年ではエッジデバイスのネットワーク接続機能だけでなく、サイバーセキュリティ対策や起動時間の短縮による消費電力削減等、ソフトウェアによる課題解決が求められております。これらの要求に応えるため、当社では継続的な研究開発活動に取り組んでおります。

### (2) 当連結会計年度における研究開発活動の成果

#### ソフトウェア事業

当連結会計年度は、主力製品である「Ubiquitous QuickBoot」のグローバル市場での新規採用を加速するために、最新のスマートデバイス向けSoCへの実装や新規アプリケーションへの対応を行いました。また、量子コンピュータの実用化を見据えた耐量子暗号（Post Quantum Cryptography）への対応において、低価格IoT製品への搭載を可能にするArm Cortex-Mベースの32bitマイコンでの実装に目途を得ました。標準化への対応に関しても、NIST（米国国立標準技術研究所）によって標準化されたFIPS 203、FIPS 204、FIPS 205について実装・検証を完了し、標準化作業中のFALCON及びHQCについても暫定仕様に基づく実装・検証を完了いたしました。セキュリティ検証サービスの需要拡大への対応と価格競争力の向上のために、ファジングツールの技術開発を行いました。また、SDV（Software Defined Vehicle）時代のためのシミュレーションベースのソフトウェア開発を実現するPCベースの車載ECUソフトウェア開発用シミュレーター「GSIL」の製品開発を行いました。

#### アナリシスソフトウェア事業

該当事項はありません。

以上の結果、当連結会計年度における研究開発費の総額は、43,511千円となりました。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

特記すべき事項はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

2026年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額			従業員数 (人)
			建 物 (千円)	工具、器具 及び 備 品 (千円)	合 計 (千円)	
本 社 (東京都新宿区)	ソフトウェア事業	事務所及び 研究開発施設 (注) 1.	-	-	-	80
小杉事業所 (神奈川県 川崎市中原区)	ソフトウェア事業	事務所 (注) 2.	-	-	-	17

(注) 1. 建物は賃借しており、その年間賃借料は104,527千円であります。

2. 建物は賃借しており、その年間賃借料は13,899千円であります。

##### (2) 国内子会社

2026年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名 称	設備の 内容	帳簿価額			従業員数 (人)
				建 物 (千円)	工具、器具 及び 備 品 (千円)	合 計 (千円)	
株式会社ライ トストーン	本 社 (東京都 千代田区)	アナリシスソフ トウェア事業	事務所 (注) 3.	7,033	1,618	8,651	18
株式会社グ レープシステ ム	本 社 (神奈川県 川崎市中原区)	ソフトウェア事 業	事務所 (注) 4.	-	-	-	28

(注) 3. 建物は賃借しており、その年間賃借料は17,029千円であります。

4. 建物は賃借しており、その年間賃借料は13,899千円であります。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,200,000
計	31,200,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2026年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2026年6月29日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	10,459,000	10,459,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	10,459,000	10,459,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年4月1日～ 2020年3月31日 (注)	2,000	10,459,000	758	1,483,482	758	1,453,482

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

#### (5)【所有者別状況】

2026年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他 法人	外国法人等		個 人 他 者		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	20	37	17	49	9,081	9,205	-
所有株式数 (単元)	-	188	6,877	6,033	1,525	491	89,339	104,453	13,700
所有株式数の 割合(%)	-	0.18	6.58	5.78	1.46	0.47	85.53	100.00	-

(注) 自己株式117株は、「個人その他」に1単元、「単元未満株式の状況」に17株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2026年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
鈴木 仁 志	東京都世田谷区	250,000	2.39
鈴木 雅 人	神奈川県横浜市西区	208,900	1.99
株式会社村田製作所	京都府長岡京市東神足1-10-1	202,000	1.93
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	191,772	1.83
東京短資株式会社	東京都中央区日本橋室町4-4-10	188,500	1.80
安川 堅 三	東京都練馬区	179,700	1.71
鈴木 明 和	愛知県名古屋市中区	173,000	1.65
上田八木短資株式会社	大阪府大阪市中央区高麗橋2-4-2	129,200	1.23
鈴木 ミ 子	愛知県名古屋市中区	126,900	1.21
滝田 芳 彦	栃木県栃木市	104,300	0.99
計	-	1,754,272	16.77

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2026年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,445,200	104,452	-
単元未満株式	普通株式 13,700	-	-
発行済株式総数	10,459,000	-	-
総株主の議決権	-	104,452	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式17株が含まれております。

【自己株式等】

2026年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社コピキタスAI	東京都新宿区西新宿一丁目23番7号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

(注) 上記の他、単元未満株式17株を保有しております。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

- (1)【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (2)【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
該当事項はありません。
- (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	117	-	117	-

## 3【配当政策】

当社は、さらなる収益基盤の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実を図っていく必要があることから、無配を継続させていただきます。

また、現在保有している資金は、革新的な技術を生み出す研究開発や世界的に競争力を持つ製品の開発及び営業力の強化、新分野への進出を容易かつ確実なものにするためのM&A等に活用し、財務の健全性を維持しながら、業績拡大を目指す所存であります。

今後の配当につきましては、安定的な利益創出と十分な内部留保が実現された段階で、事業展開の状況及びリスク等を総合的に勘案し、再開を検討してまいります。

なお、当社は「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として剰余金の配当をすることができる。」旨を定款に定めておりますが、事務コストの観点から中間配当は実施せず、期末配当の1回とする方針です。なお、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

#### 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを、経営の効率性、健全性及び透明性を確保し、企業価値の継続的向上と社会からの信頼獲得のために企業活動を規律する枠組みであると考えております。社会にとって価値ある企業となるために、今後もコーポレート・ガバナンスの維持・強化を図ってまいります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

##### a. 企業統治の体制の概要

当社は、取締役会設置会社であります。取締役会は少なくとも月1回開催し、法令、定款、株主総会決議、取締役会規程に従い、経営に関する重要な事項を決定するとともに、取締役の職務執行を監督しております。

当社の規模、組織の状況及び開催の機動性を考慮し、取締役会は2名の常勤取締役と2名の非常勤取締役（社外取締役・独立役員）で構成されております。

また、当社は、監査役会設置会社であり、3名の監査役を選任しております。全3名が社外監査役（うち独立役員3名）です。

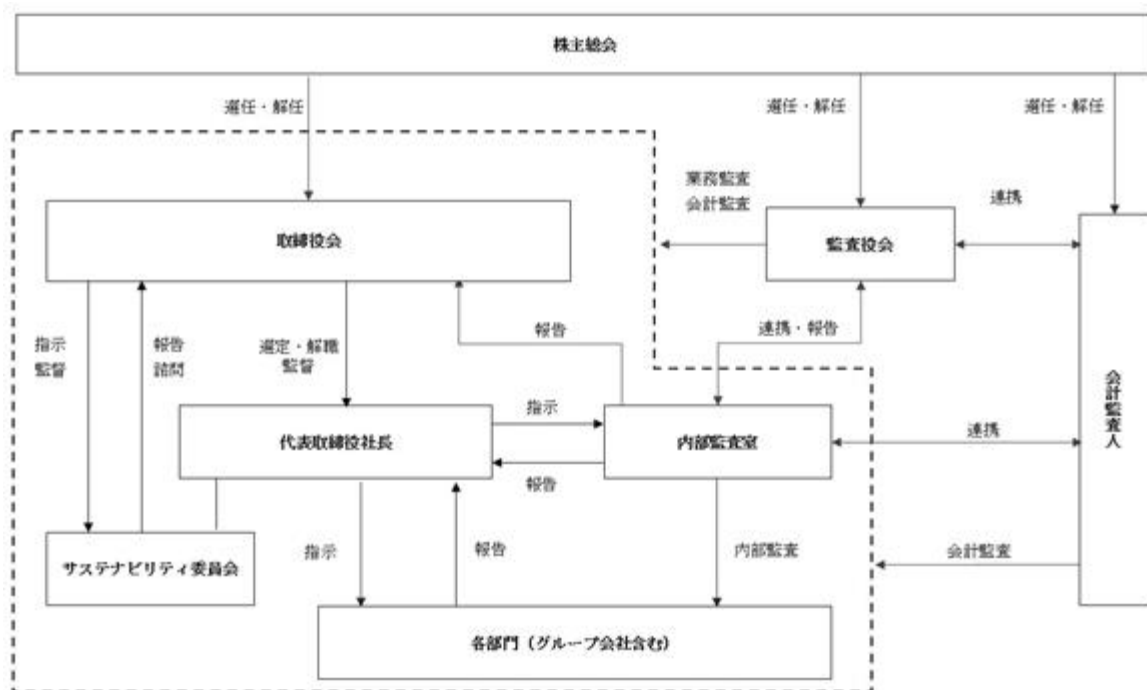
以上により、経営監視が十分に機能する体制を整えていると判断しております。

##### b. 当該体制を採用する理由

当社では、取締役会、経営会議等における十分な審議を経ることにより、経営判断の妥当性を、社外取締役の取締役会への参加により経営の透明性と健全性を確保することに努めております。

また、監査役会による取締役の職務執行に対する適正な監査など、意思決定及び管理監督が有効かつ十分に機能するための管理体制を構築しております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制は以下の図の通りであります。



企業統治に関するその他の事項

##### a. 内部統制システムの整備及び運用状況等

当社は、企業倫理の確立による健全な事業活動に向け取り組んでおります。「内部統制基本方針」及び「コンプライアンス規程」を制定し、コンプライアンス教育・研修の計画及び実施、内部情報提供制度の整備等コンプライアンス体制の充実に努めております。なお、当社におけるコンプライアンス取組みに関する決定及び進捗状況の管理は取締役会が行っており、統括責任者は代表取締役社長です。

また、業務運営を適切かつ効率的に遂行するために、会社業務の意思決定や業務実施に関する各種社内規程を定め、職務権限の明確化と適切な内部牽制が機能する体制を整備しております。財務報告の適正性確保のための体制の整備として、「経理規程」その他社内規程、会計基準その他関連する諸法令を遵守し、財務報告の適正性を確保するための体制の充実に努めております。

さらに、これらの内部統制が有効に機能していることを確かめるため、代表取締役社長自身又は内部監査室により、「内部監査規程」に基づき業務全般に関して、法令、定款及び社内規程の遵守状況、職務の執行手続及び内容の妥当性等について、定期的に内部監査を実施しております。なお、内部監査の結果は、監査役及び監査法人とも共有され、監査活動の効率化を図っております。

b. リスク管理体制の整備の状況

リスクコントロールによる経営の健全化と収益基盤の安定化は当社の重要課題であるため、法律事務所と顧問契約を結び、必要に応じて法律問題全般について助言・指導を受けております。

c. 提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の経営について、各社の自主性を尊重しながらも、経営状況及び業務執行の報告事項を定め、管理することにより、グループ経営の適正性を確保しております。

d. 取締役の定数

当社の取締役の定数は7名以内とする旨を定款で定めております。

責任限定契約

会社法第427条第1項に基づき、当社と社外取締役2名及び社外監査役3名とは、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、金5百万円と会社法第425条第1項の定める最低限度額のいずれか高い額となります。

取締役の選任の要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

株主総会決議事項のうち取締役会で決議することができる事項

a. 自己株式取得に関する要件

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して機動的な資本政策を図るため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

b. 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、取締役の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役が期待される役割を十分に発揮できるようにするためのものです。

c. 監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、監査役の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる旨を定款に定めております。これは、監査役が期待される役割を十分に発揮できるようにするためのものです。

d. 中間配当に関する事項

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件の変更

当社は、会社法第309条第2項の定めによる株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を月1回以上開催しており、個々の取締役の出席状況については次のとおりであります。

地位	氏名	開催回数	出席回数
代表取締役社長	長谷川 聡（注）1.	6回	6回
代表取締役社長	大吉 裕太（注）2.	11回	11回
取締役副社長	古江 勝利	14回	13回
取締役	阿部 海輔	14回	14回
取締役	爲廣 暁雄	14回	14回
常勤監査役	山形 有司（注）3.	14回	14回
監査役	皆川 克正	14回	14回
監査役	阿曾 友淳	14回	14回

書面決議による取締役会の回数（当事業年度12回）は除いております。

- （注）1. 代表取締役社長 長谷川 聡氏は、2025年9月2日をもって取締役を退任いたしました。そのため、同氏の出席状況は、退任前までに開催された取締役会（計6回）を対象としております。
2. 代表取締役社長 大吉 裕太氏は、2025年6月27日に取締役に就任したため、同氏の出席状況は、取締役就任以降に開催された取締役会（計11回）を対象としております。なお、同氏は2025年9月2日に代表取締役社長に就任いたしました。
3. 常勤監査役 山形 有司氏は、2026年6月29日に開催された第25回定時株主総会終結の時をもって退任いたしました。

当事業年度における取締役会の主な審議内容は、次のとおりであります。

審議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時株主総会の招集及び株主総会に付議する議題・議案の決定</li> <li>・ 代表取締役及び役付き取締役の選定</li> <li>・ 事業報告、計算書類及びこれらの附属明細書並びに連結計算書類の承認</li> <li>・ 事業計画及び中期経営計画の承認</li> <li>・ 開示資料の承認</li> <li>・ 組織体制の見直し及び関連する規程類の制定・改廃</li> <li>・ 重要人事の審議</li> <li>・ サステナビリティ関連の方針協議</li> <li>・ 月次決算の確認</li> </ul>
------	--

( 2 ) 【 役員の状況】

役員一覧

男性6名 女性1名 ( 役員のうち女性の比率14.3% )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長 ( CEO )	大吉 裕太	1990年2月15日生	2013年4月 JPモルガン証券株式会社 入社 2020年3月 スパークス・アセット・マネジメント株式会社 入社 2021年3月 リーフ株式会社 社外取締役 2021年8月 glafit株式会社 社外取締役 2022年1月 toBeマーケティング株式会社 入社 執行役員CFO 2022年7月 toBeマーケティング株式会社 取締役 CFO 2024年6月 当社 入社 執行役員 経営戦略・IR担当 株式会社グレープシステム 取締役 ( 現任 ) 2024年7月 当社 執行役員 コーポレート戦略本部長 兼 経営戦略室長 2025年3月 株式会社ライトストーン 監査役 2025年6月 当社 取締役 CSO 兼 CFO 2025年9月 当社 代表取締役社長 CEO ( 現任 ) 同年同月 株式会社ライトストーン 代表取締役会長 株式会社ライトストーン 代表取締役会長 兼 社長 ( 現任 )	( 注 ) 3	581
取締役副社長 ( COO )	古江 勝利	1969年12月25日生	1992年4月 日本モトローラ株式会社 半導体セクター入社 2004年4月 分社化によりフリースケールセミコンダクタ ジャパン株式会社 入社 2008年1月 同社 マイクロコントローラビジネスデベロッ プメント マネージャ 2014年11月 同社 コーポレートコミュニケーション部マネー ジャ 2015年4月 サイプレスセミコンダクタジャパン 入社マイコ ン事業部マーケティング 担当部長 2016年1月 IARシステムズ株式会社 入社 マーケティング チーム マネージャ 2021年1月 当社 入社 コネクティビティ&セキュリティ事業 部長 2022年4月 当社 執行役員 エンベデッドプラットフォーム 事業部長、SPQA事業部長 2023年4月 当社 マーケティング&コミュニケーション部長 2023年6月 当社 取締役 株式会社グレープシステム 取締役 2023年10月 株式会社グレープシステム 取締役 2024年4月 当社 エンベデッド第3事業部長 同年同月 当社 R&D部長 ( 現任 ) 2024年6月 株式会社グレープシステム 取締役副社長 同年同月 株式会社ライトストーン 取締役 ( 現任 ) 2025年9月 当社 取締役副社長 COO ( 現任 ) 同年同月 株式会社グレープシステム 代表取締役社長 ( 現 任 )	( 注 ) 3	6,100
取締役	阿部 海輔	1974年5月15日生	2001年9月 朝日監査法人 ( 現 有限責任あずさ監査法人 ) 入所 2007年2月 監査法人ハイビスカス 代表社員 2007年12月 株式会社ディア・ライフ 監査役 ( 現任 ) 2009年6月 明治通り税理士法人 代表社員 ( 現任 ) 2015年6月 当社 監査役 2019年6月 当社 取締役 ( 現任 ) 2025年7月 UHY東京監査法人 代表社員 ( 現任 )	( 注 ) 3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役	爲廣 暁雄	1949年8月17日生	1975年3月 日本オリベッティ株式会社 入社 1979年5月 株式会社大塚商会 入社 1992年1月 同社 経営計画室企画部 部長 1995年5月 震旦行股份有限公司 董事 1999年7月 Noah International Taiwan Corp. 設立 董事長(会長) 兼 総経理(現任) 2005年9月 株式会社ワッセイ・ソフトウェア・テクノロジー 設立 取締役(現任) 2008年10月 Otsuka Information Technology Corp. 董事 (取締役)(現任) 2015年6月 Noah Information Technology Corp. 設立 董事長(会長)(現任) 2019年6月 当社 取締役(現任)	(注)3	-
常勤監査役	岡 あゆみ	1969年7月21日生	1993年4月 現 PwCJapan有限責任監査法人 入所 2003年5月 現 EY新日本有限責任監査法人 入所 2015年11月 株式会社 MOCLURE 出向 CFO 2018年10月 シーラックス株式会社 入社 管理部長 2021年5月 岡あゆみ公認会計士事務所 所長(現任) 2022年12月 株式会社ジャパン・メディカル・カンパニー 常 勤監査役 2025年6月 日本カーバイド工業株式会社 監査役(現任) 2026年6月 当社監査役(現任) 同年同月 株式会社ライトストーン 監査役(現任) 同年同月 株式会社グレープシステム 監査役(現任)	(注)4	-
監査役	皆川 克正	1971年7月21日生	1998年4月 三菱商事株式会社 入社 2007年12月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 2010年9月 皆川恵比寿法律事務所 設立 代表 2016年6月 当社監査役(現任) 2020年3月 株式会社大塚商会 監査役(現任) 2022年1月 Kollectパートナーズ法律事務所 代表弁護士 (現任)	(注)5	-
監査役	阿曾 友淳	1969年1月22日生	1991年4月 明治生命保険相互会社(現 明治安田生命保険相 互会社) 入社 2000年10月 太田昭和センチュリー監査法人(現 EY新日本有 限責任監査法人) 入所 2004年4月 公認会計士登録 2016年5月 株式会社グラフィコ 管理部長 2016年9月 株式会社Amazia 監査役(現任) 2017年6月 株式会社城南進学研究社 取締役(監査等委員) (現任) 2018年1月 tripla株式会社 監査役(現任) 2019年6月 当社監査役(現任) 2021年3月 ESネクスト監査法人 代表パートナー 2022年2月 ESネクスト有限責任監査法人 理事 パートナー (現任)	(注)6	-
計					6,681

- (注) 1. 取締役 阿部海輔、爲廣暁雄は、社外取締役であります。  
2. 監査役 岡あゆみ、皆川克正及び阿曾友淳は、社外監査役であります。  
3. 2025年6月30日より2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時まで  
4. 2026年6月29日より4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時まで  
5. 2024年6月27日より4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時まで  
6. 2023年6月27日より4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時まで

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

社外取締役 阿部海輔氏は、過去の社外監査役の実績に加え、公認会計士としての観点から、当社の経営に対する監督と助言を行っていただくため、社外取締役として選任しております。

なお、同氏は株式会社ディア・ライフ監査役、明治通り税理士法人代表社員及びUHY東京監査法人代表社員を兼務しておりますが、いずれも当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

同氏と当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。当社は同氏について一般株主との間で利益相反が生じるおそれがないと判断し、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。

社外取締役 爲廣曉雄氏は、IT及びソフトウェアに関する事業の企業経営者としての豊富な経験があり、経営上求められる判断力、識見などを有し、当社の経営に対する監督と助言を行っていただくため、社外取締役として選任しております。

なお、同氏はNoah International Taiwan Corp. 董事長（会長）兼総経理、株式会社ワッセイ・ソフトウェア・テクノロジー取締役、Otsuka Information Technology Corp. 董事（取締役）及びNoah Information Technology Corp. 董事長（会長）を兼務しておりますが、いずれも当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

同氏と当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。当社は同氏について一般株主との間で利益相反が生じるおそれがないと判断し、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。

社外監査役 岡あゆみ氏は、公認会計士及び他社での監査役としての幅広い見識、豊富な経験を当社の監査に活かしていただくため、社外監査役として選任しております。

同氏と当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

なお、同氏は岡あゆみ公認会計士事務所所長及び日本カーバイド工業株式会社監査役を兼務しておりますが、いずれも当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。当社は同氏について一般株主との間で利益相反が生じるおそれがないと判断し、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。

社外監査役 皆川克正氏は、弁護士としての豊富な経験と見識を当社の監査に活かしていただけるものと判断し、社外監査役として選任しております。

同氏と当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

なお、同氏はKollectパートナーズ法律事務所代表弁護士及び株式会社大塚商会監査役を兼務しておりますが、いずれも当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。当社は同氏について一般株主との間で利益相反が生じるおそれがないと判断し、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。

社外監査役 阿曾友淳氏は、公認会計士及び他社での監査役としての幅広い見識、豊富な経験を当社の監査に活かしていただくため、社外監査役として選任しております。

同氏と当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。

なお、同氏はESネクスト有限責任監査法人理事、株式会社Amazia監査役、株式会社城南進学研究社取締役（監査等委員）、tripia株式会社監査役を兼務しておりますが、いずれも当社との間に人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はありません。当社は同氏について一般株主との間で利益相反が生じるおそれがないと判断し、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための具体的な基準を定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で、社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

監査役は常に取締役会に出席し、取締役の職務執行状況をチェックしております。監査役は、法令が定める権限を行使するとともに、内部監査室及び会計監査責任者と連携して、「監査役会規程」に則り、取締役の職務執行の適正性について監査を実施しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役監査については、管理部門を統括してきた豊富な経験・見識を有する者、公認会計士資格を有する者及び弁護士資格を有する者を社外監査役として選任しており、経営監視機能が有効に機能する体制を構築しております。

各監査役は、毎月開催される取締役会及び監査役会に出席し、取締役の職務執行について監査を実施しており、必要に応じて取締役に対して業務執行に関する報告を求めております。常勤監査役は、必要に応じて関係者へのヒアリング、調査を行い、その状況を他の監査役と連携することにより、監査の充実を図っております。

また、定期的に監査役会を実施し、他の監査役と連携してその職務を執行するとともに、会計監査人から期初に監査計画の説明を受け、期中に監査状況を聴取し、期末に監査結果の報告を受ける等、連携を図っております。

なお、監査役の選任理由については、「(2) 役員状況 社外役員の状況」のとおりであります。

当事業年度において当社は監査役会を月1回以上開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
山形 有司(注)	13回	13回
皆川 克正	13回	13回
阿曾 友淳	13回	13回

(注) 常勤監査役 山形 有司氏は、2026年6月29日に開催された第25回定時株主総会終結の時をもって退任いたしました。

当事業年度における監査役会の主な検討内容は、次のとおりであります。

検討内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月次決算、四半期決算、期末決算及び資金状況の適切性の確認</li> <li>・ 財務経理業務体制や決算に関するヒアリング及び対応状況の確認</li> <li>・ 会計監査人の監査報酬に関する審議・承認</li> <li>・ 会社法に基づき、会計監査人や取締役の職務執行状況に関する監査報告書を作成し、取締役会提出に先立って内容を確認・承認</li> <li>・ 内部監査部門との連携を図り、監査結果の報告を受けるとともに、重要論点について意見交換を実施</li> <li>・ 経営体制見直しに関する検討及び取締役会への提言</li> <li>・ 内部通報制度などガバナンス施策の見直し状況の確認</li> </ul>
------	---

内部監査の状況

内部監査の体制は、「(1) コーポレート・ガバナンスの概要 企業統治に関するその他の事項 a. 内部統制システムの整備及び運用状況等」に記載しております。

当社における内部監査は、代表取締役直轄の内部監査室が「内部監査規程」に基づき、各事業部門及び子会社の業務活動に関して、運営状況、業務実施の有効性及び正確性、コンプライアンス遵守状況等についての監査を定期的に行い、代表取締役社長に報告又は必要に応じて取締役会に直接報告されるとともに、被監査部門に対する具体的な助言・勧告を行い、改善状況を確認するなど、実効性の高い内部監査を実施しております。

内部監査室は監査役とともに各事業年度の内部監査計画を策定し、定期的に会合を開催して監査結果や指摘事項について協議・意見交換するなど、緊密な連携を図ることとしております。

また、内部監査室は監査役及び会計監査人と連携し、相互の監査を効率的に遂行できる体制を構築しており、監査役、会計監査人、内部監査責任者の三者による会合を年複数回開催し、情報交換を行うこととしております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

b. 継続監査期間

7年間

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 大好慧

指定有限責任社員 業務執行社員 山内紀彰

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、その他13名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務執行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行った上で、会計監査人を選定しております。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役及び監査役会は、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求めました。その結果、会計監査人の職務執行に問題はないと評価いたしました。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	29,400	-	29,400	-
連結子会社	-	-	-	-
計	29,400	-	29,400	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は策定しておりませんが、監査公認会計士等からの見積提案をもとに、監査計画、監査内容、監査日数等の要素を勘案して検討し、監査役会の同意を得て決定する手続きを実施しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、監査計画、監査内容、監査日数等の要素と報酬見積りなどが当社グループの事業規模や事業内容に適切であるかどうかについて必要な検証を行った上で、会計監査人の報酬等の額について同意の判断を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、2024年5月29日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針を決議しております。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものと判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容にかかる決定方針の内容は以下のとおりです。

a. 基本方針

取締役及び監査役の報酬等は、優秀な人材を確保・維持できる水準を勘案しつつ、当社の業績向上、違法適切な安定的経営及び企業価値の増大を図るための報酬体系としております。

具体的には、職責に応じた基本報酬、短期的な業績に連動する賞与、会社の長期的な成長と連動するストックオプションの3要素によって構成されます。

なお、2026年3月期はこのうち基本報酬の支給の費用計上を行っております。

b. 基本報酬の個人別の報酬等の額の決定に関する方針

取締役の基本報酬は、役位、職責に応じて当社の経営状況、内容、社員の給与との均衡及び一般的な役員報酬の相場を勘案し、役員の職位ごとに決定いたします。

社外取締役の報酬については、その役員の社会的地位、会社への貢献度及び就任の事情などを総合的に勘案し固定給を支払うこととしております。

c. 業績連動報酬等の額又は算定方法の決定に関する方針

取締役の業績連動報酬は、当事業年度の会社の業績に応じて決定いたしますが、近年では業績状況を踏まえ、実施・支給しておりません。

ストックオプションの各役員への付与数については、代表取締役社長が取締役会に諮って決定いたします。

監査役の報酬等は、株主総会で決議された年間報酬限度額（年額：1億円以内 2004年10月22日開催臨時株主総会決議）の範囲内で、職責に応じて監査役会において決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	56,000	56,000	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-
社外役員	34,600	34,600	-	-	5

(注) 上表の「取締役(社外取締役を除く)」の区分には、当事業年度中に退任した取締役1名を含んでおります。

( 5 ) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は中長期的な取引関係の維持・強化などに資する場合、当社グループの事業活動の円滑な推進に有用と判断した場合には、保有目的が純投資目的以外の目的である株式を取得・保有しております。

現時点において、保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式として保有する上場株式については、現在保有している企業数から拡大する方針はなく、今後は取得経緯、取引実績、協力・協業関係の状況、配当実績など、当社グループの事業活動の円滑な推進に有用か否かといった観点から、保有の合理性の検証を行い、その内容などについて、検討審議しております。

また当社は、テクノロジーの活用や外部パートナーとの連携によるビジネス領域の拡大を目的に、未上場のベンチャー企業への出資を実施しております。(上場企業3社、未上場企業4社)

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容  
当社は、業務提携など経営戦略の一環として、また、取引先との良好な関係を構築し、事業の円滑な推進を図るため必要と判断する企業の株式を保有する方針であります。

これらの保有株式は、保有の意義・経済合理性等を評価し、十分な意義が認められないと判断される銘柄については、取締役会において売却を決定し、適宜縮減を図っております。なお、現在保有する特定投資株式はいずれも保有方針に沿った目的で保有しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	4	43,624
非上場株式以外の株式	3	263,844

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	1	0
非上場株式以外の株式	-	-

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由(注)	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
株式会社村田製作所	54,900	54,900	具体的な保有目的は、近距離無線通信市場におけるより一層の競争力の強化と顧客満足の上昇、両社間の協力関係の強化のためであり、資本・業務提携に関する合意書を締結しております。保有の意義・合理性は、a.に記載の方法により検証しており保有は適切と判断しております。	有
	187,154	126,571		
株式会社メンタルヘルステクノロジーズ	100,000	100,000	具体的な保有目的は、様々な領域で相互に情報交換を行う関係を維持するためであります。保有の意義・合理性は、a.に記載の方法により検証しており保有は適切と判断しております。	無
	74,800	87,000		
株式会社ソケット	2,825	2,825	具体的な保有目的は、協業関係の維持・発展のためであります。保有の意義・合理性は、a.に記載の方法により検証しており保有は適切と判断しております。	無
	1,890	1,576		

(注) 具体的な定量的な保有効果については、市場環境の多様化、複雑化により記載が困難ではありますが、保有の意義・経済合理性等を評価し、十分な意義が認められないと判断される銘柄については、取締役会において売却を決定し、適宜縮減を図っております。なお、現在保有する特定投資株式はいずれも保有方針に沿った目的で保有しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

d. 保有目的が純投資目的である投資株式の貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません。

## 5【従業員の状況等】

### (1)【人材戦略に関する基本方針等】

当社グループは、2026年度から2028年度までを「基盤整備の3年」と位置づけ、製造業顧客を基盤として、既存事業の収益力強化と成長領域への投資を両立させる方針であります。具体的には、自社製品（メーカー機能）、海外製品（技術商社機能）及び受託開発（オーダーメイド機能）の3つのアプローチを通じた既存事業の安定成長に加え、IoTセキュリティ領域を起点とした成長事業の拡大、グループシナジーの創出、連続的なM&A及びPMIの推進を経営戦略の中核に据えております。

この経営戦略の実現に当たっては、組込みソフトウェアからIT開発まで対応可能な人材ポートフォリオの拡充、IoTセキュリティ、AI、Big Data、量子分野等の成長領域を担う専門人材の育成、確保及びグループ横断での人材活用を支える共通基盤の整備が重要であると認識しております。当社グループは、人材を事業成長と革新の原動力と位置づけ、企業戦略と関連付けた人材戦略を推進しております。

#### 人材戦略の基本方針

当社グループは、次のとおり人的資本に関する基本理念及び人材育成の方針を掲げ、これらの基本理念と戦略実現を担うこととなるあるべき人材像の明確化、その実現に向けた育成・配置・評価に取り組んでおります。

#### <人材育成の方針>

私たちの想い

All for wonderful life

#### Mission

先進かつ優れたテクノロジーで、社会を進化させる。

Invisible Tech, Visible Change

#### Vision

最適なソフトウェアテクノロジーを、あらゆるところに。

Software, Everywhere

#### Values

自社だけでなく、かかわるすべての人たちの利益を考えて行動する。

Grow Together

広い視野で世界を見つめ、テクノロジーへの好奇心をもちつづける。

Curious about Technology

挑戦を楽しみ、挑戦に拍手をおくる。

Embrace challenge

専門性をもった者同士が互いを尊重し、助けあい、高めあう。

Be professional

人にはもちろん、仕事や技術に対しても誠実に向きあう。

With integrity

2025年度においては、これら理念を体現する人材が当社グループのあるべき人材であると定義し、その人材に必要な資質・能力を8軸に言語化し、育成可能な等級制度を確立いたしました。これにより、理念、戦略、人材育成の一体的運営が可能となり、長期的にあるべき人材の育成に取り組み、当社固有の強みを発揮できる人的資本基盤の質的向上に努めてまいります。

#### 企業戦略と関連付けた人材戦略

(既存事業の収益力強化を支える人材ポートフォリオの拡充)

当社グループは、既存事業の安定成長と高収益化を実現するため、組込みソフトウェア、自社製品開発、技術商社機能、受託開発及びデータアナリティクス、AI、量子ソリューションの各領域において、専門性の高い人材の育成・確保を進めております。特に、製品販売と受託開発を組み合わせた提案力、顧客の開発プロセス全体を支援できる営業・技術の連携体制及び組込みからITまで対応可能な開発体制の強化を重視しております。

(成長領域を担う専門人材の確保・育成)

2026年度から2028年度までの中期経営計画において、当社グループはIoTセキュリティ領域を成長事業の起点と位置づけております。このため、デバイスセキュリティ、デバイス周辺のサイバーセキュリティ、セキュリティ検証、SBOM、暗号関連技術、AI及びBig Data、量子等の分野を担う専門人材の育成、リスクリング及び採用を推進し、中長期的にはCPS構築に必要なケイパビリティの拡張を目指してまいります。

(グループシナジー創出とPMIを支える人材基盤の整備)

前中期経営計画期間において2社の企業買収を実行したことを踏まえ、当社グループは、子会社を含むグループ全体で人的資本経営を推進しております。人事制度及び目標管理・業績評価制度の統一、組織横断アサイン、人材流動の活性化、人的資本サーベ이의共通実施等により、グループ横断で最適な人材配置を行うとともに、M&A後のPMIを支える共通基盤の整備を進めております。

(生産性向上と人材育成の高度化)

当社グループは、事業成長と収益性向上を両立させるため、技術トレンド及びビジネスモデルの変化を踏まえたスキルアップ、プロジェクトマネジメントの高度化、営業活動の連携強化並びにデジタル活用による生産性向上に取り組んでおります。これにより、将来の成長投資を支える人材基盤の強化を図っております。

加えて、再成長のエンジンとして「技術×営業」の融合を重視し、顧客・市場・技術論点を継続的に深掘りする体制を整備するとともに、営業改革の一環としてパイプライン創出(Pipe Generation)及びパイプライン管理(Pipe Management)を強化し、営業・PM・エンジニアが連携して売上機会の量と質の向上を図っております。

従業員給与等の決定方針

提出会社における従業員給与等は、各人の職務・役割・専門性、成果、能力の伸長、当社グループ及び各事業の業績、市場水準並びに内部公平性等を総合的に勘案して決定しております。高度専門人材の確保及び定着、成長領域への人材シフト、並びに中長期的な企業価値向上に資する人材投資を意識しつつ、処遇の適正化を図っております。平均年間給与及びその対前事業年度増減率等については、「(2)従業員の状況」に記載のとおりであります。

指標及び目標

当社グループは、人材戦略の実効性を把握するため、グループ人事制度統一の進捗、人的資本サーベイによる資質・能力の定量把握、ワークエンゲージメント及び組織エンゲージメント、組織横断アサイン及び専門人材育成の進捗等を主要な指標としております。

人的資本の定量化と施策の検証については、当社及び各子会社における人的資本の状況を、サーベイによって同一の尺度で定量化し、各組織の人材における資質・能力の特徴を把握するとともに、人事制度の設計や、人事施策の投入に活用できる環境を整えております。毎年度の測定により、人材の成長度や、施策の有効性について検証しております。

また、ワークエンゲージメントや組織エンゲージメントを数値化し、仕事のやりがいを高めるワークエンゲージメントと、当社グループへの帰属意識を高める組織エンゲージメントの向上を図っております。これらの指標は、多様な人材が活躍できる環境評価にも活用しており、毎年重点項目を定めて改善に取り組んでおります。

2025年度のワークエンゲージメントの平均は3.63、組織エンゲージメントの平均は3.31となっております。経年の傾向として相対的に、内部からの評価、外部からの評価といった、自己肯定感を高める要素が相対的に低くなっております。2026年度以降は、目標管理の精度を高め、目標達成支援によるフィードバックを強化し、成果を挙げれば評価されるという因果関係を明確化して、成功体験による内発的動機付けの強化に努めてまいります。このように指標の変化と施策を紐づけた人的資本マネジメントを推進しております。

(2) 【従業員の状況】  
連結会社の状況

2026年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
ソフトウェア事業	130	(22)
アナリシスソフトウェア事業	23	(4)
報告セグメント計	153	(26)
全社(共通)	46	(9)
合計	199	(35)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。  
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、営業部、管理部門等に所属しているものであります。  
3. 当連結会計年度より、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」及び「ソフトウェアサービス事業」を「ソフトウェア事業」として統合し、「データアナリティクス事業」を「アナリシスソフトウェア事業」に名称を変更した上で、2つのセグメントに変更しております。

提出会社の状況

2026年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)	平均年間給与の 対前事業年度増減率 (%)
106(22)	48.0	10.3	7,229	8.8

2026年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
ソフトウェア事業	68	(15)
報告セグメント計	68	(15)
全社(共通)	38	(7)
合計	106	(22)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。  
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、営業部、管理部門等に所属しているものであります。  
3. 当事業年度より、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」及び「ソフトウェアサービス事業」を「ソフトウェア事業」として統合しております。

労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

管理的地位にある労働者に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の額の差異

ア 提出会社

当事業年度					補足説明
管理的地位にある労働者に占める女性労働者の割合(%) (注)1.	男性労働者の育児休業取得率(%) (注)2.	労働者の男女の賃金の額の差異(%) (注)1.			
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者	
0.0	100.0	61.9	63.5	56.7	

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

イ 連結子会社

連結子会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の財務諸表について、太陽有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、

(1) 会計基準等の内容を適切に把握し、的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構から発信される会計基準の新設、改正等に関する情報を入手しております。また、同機構や監査法人等の開催するセミナーへ参加及び会計専門誌等の定期購読を行っております。

(2) 適正な連結財務諸表等を作成するための社内規程、マニュアル、指針等の整備を行っております。なお、代表取締役社長直轄の部署として内部監査担当部門を設置し、社内規程等の整備運用状況及び有効性を評価しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,346,054	1,995,296
受取手形及び売掛金	1,035,037	1,951,056
商品及び製品	10,172	5,299
仕掛品	8,225	17,657
前払費用	83,427	100,416
未収還付法人税等	-	10,582
その他	30,439	6,589
流動資産合計	2,513,353	3,086,895
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物附属設備(純額)	62,888	7,033
工具、器具及び備品(純額)	29,562	1,618
有形固定資産合計	2,92,450	2,8,651
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	52,142	33,766
のれん	348,407	116,522
その他	293	-
無形固定資産合計	400,841	150,288
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	265,341	312,468
差入保証金	135,306	134,639
繰延税金資産	40,357	3,618
その他	2,828	2,380
投資その他の資産合計	443,832	453,105
固定資産合計	937,123	612,044
資産合計	3,450,476	3,698,939

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	305,387	227,642
1年内返済予定の長期借入金	28,590	199,956
未払金	119,218	61,015
未払費用	37,124	31,627
未払法人税等	45,153	17,390
未払消費税等	52,132	18,519
契約負債	100,849	141,214
賞与引当金	28,000	28,000
資産除去債務	-	7,844
その他	14,263	14,766
流動負債合計	730,717	747,972
固定負債		
長期借入金	36,824	716,729
退職給付に係る負債	226,371	224,195
資産除去債務	39,498	35,818
繰延税金負債	19,341	62,169
その他	1,678	1,348
固定負債合計	323,712	1,040,258
負債合計	1,054,428	1,788,230
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,483,482	1,483,482
資本剰余金	1,453,482	1,453,482
利益剰余金	650,421	1,169,124
自己株式	121	121
株主資本合計	2,286,423	1,767,720
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	109,625	142,988
その他の包括利益累計額合計	109,625	142,988
純資産合計	2,396,048	1,910,709
負債純資産合計	3,450,476	3,698,939

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日)
売上高	1 4,138,789	1 3,924,475
売上原価	2,416,827	2,416,869
売上総利益	1,721,962	1,507,606
販売費及び一般管理費	2, 3 1,625,464	2, 3 1,708,723
営業利益又は営業損失( )	96,498	201,117
営業外収益		
受取利息	607	2,266
受取配当金	2,965	4,304
受取保険金	-	10,000
為替差益	-	3,125
その他	-	676
営業外収益合計	3,573	20,372
営業外費用		
支払利息	1,892	7,119
支払手数料	-	24,046
為替差損	3,073	-
投資事業組合運用損	2,217	1,425
その他	-	352
営業外費用合計	7,182	32,943
経常利益又は経常損失( )	92,889	213,688
特別利益		
固定資産売却益	4 221	-
役員退職慰労引当金戻入額	45,465	-
特別利益合計	45,686	-
特別損失		
固定資産除却損	5 2,886	-
投資有価証券評価損	15,152	-
減損損失	-	6 219,628
特別損失合計	18,037	219,628
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	120,537	433,316
法人税、住民税及び事業税	39,052	21,152
法人税等調整額	9,599	64,234
法人税等合計	29,453	85,386
当期純利益又は当期純損失( )	91,084	518,702
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( )	91,084	518,702

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益又は当期純損失 ( )	91,084	518,702
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,458	33,363
その他の包括利益合計	28,458	33,363
包括利益	62,626	485,339
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	62,626	485,339

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,483,482	1,453,482	741,505	121	2,195,339
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益			91,084		91,084
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	91,084	-	91,084
当期末残高	1,483,482	1,453,482	650,421	121	2,286,423

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	138,083	138,083	2,333,422
当期変動額			
親会社株主に帰属する 当期純利益			91,084
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	28,458	28,458	28,458
当期変動額合計	28,458	28,458	62,626
当期末残高	109,625	109,625	2,396,048

当連結会計年度（自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,483,482	1,453,482	650,421	121	2,286,423
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			518,702		518,702
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	518,702	-	518,702
当期末残高	1,483,482	1,453,482	1,169,124	121	1,767,720

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	109,625	109,625	2,396,048
当期変動額			
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			518,702
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	33,363	33,363	33,363
当期変動額合計	33,363	33,363	485,339
当期末残高	142,988	142,988	1,910,709

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	120,537	433,316
減価償却費	28,757	77,808
減損損失	-	219,628
のれん償却額	94,011	94,011
役員退職慰労引当金戻入額	45,465	-
投資有価証券評価損益( は益)	15,152	-
受取利息及び受取配当金	3,573	6,570
支払利息	1,892	7,119
受取保険金	-	10,000
売上債権の増減額( は増加)	15,886	84,429
棚卸資産の増減額( は増加)	2,546	4,559
前払費用の増減額( は増加)	5,718	15,551
営業債務の増減額( は減少)	12,250	77,745
未払金の増減額( は減少)	24,183	45,990
未払費用の増減額( は減少)	2,703	5,497
未払又は未収消費税等の増減額	12,012	33,613
契約負債の増減額( は減少)	46,243	40,035
預り金の増減額( は減少)	5,571	502
その他	21,955	19,873
小計	152,880	89,436
利息及び配当金の受取額	3,573	6,564
利息の支払額	2,060	8,558
保険金の受取額	-	10,000
法人税等の支払額	35,351	56,415
法人税等の還付額	18,835	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	137,876	137,845
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	4,624	8,330
有形固定資産の売却による収入	1,885	-
無形固定資産の取得による支出	32,069	44,701
投資有価証券の取得による支出	-	15,000
投資有価証券の売却による収入	-	0
定期預金の払戻による収入	65,533	5,006
差入保証金の差入による支出	8,387	-
差入保証金の回収による収入	10,598	666
資産除去債務の履行による支出	9,800	211
その他	20	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	23,157	62,570
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額( は減少)	161,780	-
長期借入れによる収入	-	1,000,000
長期借入金の返済による支出	59,135	148,729
財務活動によるキャッシュ・フロー	220,915	851,271
現金及び現金同等物に係る換算差額	282	3,386
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	60,164	654,242
現金及び現金同等物の期首残高	1,401,217	1,341,054
現金及び現金同等物の期末残高	1,341,054	1,995,296

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 2社

主要な連結子会社の名称

株式会社ライトストーン

株式会社グレープシステム

(2) 非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結会計年度末日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法を採用しております。

棚卸資産

商品及び製品

移動平均法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

仕掛品

個別法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は建物及び建物附属設備6～18年、工具、器具及び備品4～15年です。

無形固定資産

市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売金額を基準として販売金額に応じた割合に基づく償却額と見込販売可能期間(3年)に基づく定額償却額のいずれが多い金額をもって償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法により償却しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び一部の連結子会社は退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び収益を認識する時点は以下のとおりであります。

イ．ソフトウェアの使用許諾による収益

ソフトウェア製品を顧客に使用許諾して対価を得るもので、契約時一時金による収益、ランニングロイヤルティによる収益及びライセンスによる収益に区分されます。

・ 契約時一時金による収益

ソフトウェアにおける製品のソースコード又はオブジェクトコードを顧客に使用許諾する対価として收受するものであります。顧客に製品を引き渡した時点で顧客に所有権が移転し、対価を受け取る権利が確定するため、当該時点（一時点）で収益を認識しております。

・ ランニングロイヤルティによる収益

顧客がソフトウェア製品を複製してデバイスに組み込んで販売する際に、複製本数に応じて收受する対価であります。顧客が当該製品を複製した時点で対価を受け取る権利が確定するため、当該時点（一時点）で収益を認識しております。

・ ライセンスによる収益

ソフトウェア製品による知的財産のライセンスの使用及び期間等を限定して顧客に提供するものであります。主に、品質向上支援ツールや車載機器開発・テストツールといった開発ツール系の製品群をこの形態で提供しています。対象となる知的財産が有する能力は契約時点で確定しており、その後、当該知的財産に著しい影響を与える活動を行うことは契約に含まれておらず、また、顧客に合理的に期待されていないと認識しております。さらに、当該知的財産の機能等が適宜アップデートされる等により、顧客が影響を受けることはないと認識しております。そのため、知的財産を使用する権利（使用権）としてライセンス提供を開始した時点（一時点）で収益を認識しております。

ロ．ソフトウェア受託開発による収益

顧客の求めに応じて、ソフトウェア製品を特定のプラットフォームへの移植やカスタム対応の対価として收受するものであります。ソフトウェア製品の移植やカスタマイズを履行義務としており、顧客が成果物に対して検収合格と判断したことを書面等で確認した時点（一時点）において、履行義務が充足されたと考え、収益を認識しております。

ハ．サポート取引による収益

ソフトウェア製品を使用許諾した顧客に対する技術サポートへの対価として收受するものであります。納品後一定期間に限って提供する初期サポートや年単位で開発工数を提供する年間サポートなどがあります。技術サポートを履行義務としており、契約期間を履行義務の充足期間（一定の期間）として均等に収益を認識しております。

なお、上記いずれの取引においても、取引の対価は履行義務を充足してから1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

- (6) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権及び外貨建金銭債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- (7) のれんの償却方法及び償却期間  
のれんの償却については、5～6年間の定額法により償却を行っております。
- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスルしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

企業結合により発生したのれんの評価

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
のれん	348,407	116,522
うち、株式会社ライトストーンに関連するのれん	155,362	116,522
うち、株式会社グレープシステムに関連するのれん	193,045	-
株式会社グレープシステムに関連するのれんの減損損失	-	137,875

識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

・算出方法

当社は、株式会社ライトストーン及び株式会社グレープシステムの発行済株式の全株式を取得した際に生じた超過収益力をのれんとして計上しております。

当社は、のれんを含むより大きな単位で、減損の兆候の判定を行っております。当社は、減損の兆候を把握するために、事業計画の達成状況、翌連結会計年度以降の事業計画における営業利益の水準を評価しております。減損の兆候があると判断した場合には、減損損失の認識の判定を行っております。

判定の結果、株式会社ライトストーンに関連するのれんについては、減損の兆候がないと判断し、減損損失は認識しておりません。株式会社グレープシステムに関連するのれんについては、外部環境及び事業環境の変化に伴う顧客の投資抑制や主力製品の代理店契約終了の影響により、翌連結会計年度以降の経営環境が著しく悪化する見込みであり、当初想定していた収益が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。回収可能価額は、使用価値に基づき算定しており、使用価値は零として算定しております。

・主要な仮定

のれんの減損の兆候の有無の判定においては、のれんが帰属する資産グループから生じる営業利益及び将来の事業計画を用いております。また、将来キャッシュ・フローの見積りは、取締役会で承認された事業計画に基づいております。当該事業計画の主要な仮定は翌連結会計年度以降の売上予測となっております。

・翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

当社グループの過去の経験と利用可能な情報に基づいて設定した仮定は将来の不確実性を伴うため、翌連結会計年度において、事業計画との乖離が生じることにより、減損損失を計上する可能性があります。



(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
給料及び手当	676,204千円	732,864千円
賞与引当金繰入額	12,118	13,480
退職給付費用	11,164	9,069
支払手数料	239,986	344,998

3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
	53,981千円	43,511千円

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
車両運搬具	221千円	- 千円
計	221	-

5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
建物附属設備	2,792千円	- 千円
工具、器具及び備品	76	-
ソフトウェア	17	-
計	2,886	-

6 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

会社	場所	用途	種類
株式会社ユビキタスAI	東京都新宿区等	事業用資産	建物附属設備、工具、器具及び備品、ソフトウェア、その他（無形固定資産）
株式会社グレープシステム	神奈川県川崎市 中原区	事業用資産	建物附属設備、工具、器具及び備品、のれん

減損損失の算定にあたっては、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として会社別を基礎として資産のグルーピングを行っております。

上記資産グループについては、営業活動による収益性の低下が認められ、短期的な回復が見込まれないため、当該資産グループに係る資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

減損損失のそれぞれの内訳は株式会社ユビキタスAI 79,306千円（建物附属設備53,252千円、工具、器具及び備品25,340千円、ソフトウェア510千円、その他（無形固定資産）203千円）、株式会社グレープシステム140,322千円（建物附属設備203千円、工具、器具及び備品2,244千円、のれん137,875千円）となります。

なお、回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから零として評価しております。

（連結包括利益計算書関係）

その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月 31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	39,035千円	48,696千円
組替調整額	-	-
法人税等及び税効果調整前	39,035	48,696
法人税等及び税効果額	10,577	15,333
その他有価証券評価差額金	28,458	33,363
その他の包括利益合計	28,458	33,363

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	10,459,000	-	-	10,459,000

2. 自己株式に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	117	-	-	117

3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	10,459,000	-	-	10,459,000

2. 自己株式に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	117	-	-	117

3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金勘定	1,346,054千円	1,995,296千円
預入期間が3か月を超える定期預金	5,000	-
現金及び現金同等物	1,341,054	1,995,296

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、必要に応じて運転資金を銀行借入により調達する方針です。また、デリバティブは利用しておらず、投機的な取引は行いません。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクにさらされており、外貨建の営業債権は、為替リスクにさらされております。

投資有価証券は、取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式及び投資事業有限責任組合への出資であり、それぞれ発行体の信用リスク及び価格の変動リスクにさらされております。

差入保証金は、本社等の賃借に関するもので、貸主の信用リスクにさらされております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日です。また、未払金、未払法人税等、未払消費税等についても、1年以内の支払期日です。長期借入金は運転資金に係る資金調達を目的としております。

買掛金や未払金、長期借入金、未払法人税等、未払消費税等は、流動性リスクにさらされております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

・信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、受注管理規程に従い、営業債権について取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、信用状況を把握しております。

差入保証金については、信用リスクは僅少であると認識しております。

・市場リスク(価格の変動リスク)の管理

当社グループは、投資有価証券について、定期的に発行体から財務状況、信用状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。また、外貨建の債権については、その金額が僅少であるためヘッジ等は行っておりません。

・資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、資金繰り計画を作成するとともに、手許流動性の維持により流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

なお、「現金」は注記を省略しており、「預金」、「売掛金」、「未収還付法人税等」、「買掛金」、「未払金」、「未払法人税等」及び「未払消費税等」は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

前連結会計年度（2025年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
投資有価証券 その他有価証券(*1)	215,148	215,148	-
差入保証金	135,306	112,515	22,790
長期借入金(*2)	65,414	62,877	2,537

(\*1) 市場価格のない株式等及び投資事業有限責任組合への出資は、「投資有価証券 その他有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式(*3)	5,000
投資事業有限責任組合への出資(*4)	45,192

(\*2) 1年内返済予定の長期借入金を含む。

(\*3) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(\*4) 投資事業有限責任組合への出資については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24 - 16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

当連結会計年度（2026年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
投資有価証券 その他有価証券(*1)	263,844	263,844	-
差入保証金	134,639	105,863	28,776
長期借入金(*2)	916,685	907,018	9,667

(\*1) 市場価格のない株式等及び投資事業有限責任組合への出資は、「投資有価証券 その他有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式(*3)	5,000
投資事業有限責任組合への出資(*4)	43,624

(\*2) 1年内返済予定の長期借入金を含む。

(\*3) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(\*4) 投資事業有限責任組合への出資については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24 - 16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2025年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,346,054	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,035,037	-	-	-
投資有価証券	-	-	45,192	-
合計	2,381,091	-	45,192	-

当連結会計年度（2026年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,995,296	-	-	-
受取手形及び売掛金	951,056	-	-	-
投資有価証券	-	-	43,624	-
合計	2,946,352	-	43,624	-

（注）2．短期借入金、長期借入金の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（2025年3月31日）

	1年以内 （千円）	1年超 2年以内 （千円）	2年超 3年以内 （千円）	3年超 4年以内 （千円）	4年超 5年以内 （千円）	5年超 （千円）
長期借入金（*）	28,590	10,452	6,348	4,308	4,308	11,408
合計	28,590	10,452	6,348	4,308	4,308	11,408

（\*）1年内返済予定の長期借入金を含む。

当連結会計年度（2026年3月31日）

	1年以内 （千円）	1年超 2年以内 （千円）	2年超 3年以内 （千円）	3年超 4年以内 （千円）	4年超 5年以内 （千円）	5年超 （千円）
長期借入金（*）	199,956	199,956	199,956	199,956	116,861	-
合計	199,956	199,956	199,956	199,956	116,861	-

（\*）1年内返済予定の長期借入金を含む。

### 3．金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債  
前連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 其他有価証券	215,148	-	-	215,148

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 其他有価証券	263,844	-	-	263,844

時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債  
前連結会計年度（2025年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
差入保証金	-	112,515	-	112,515
長期借入金(*)	-	62,877	-	62,877

(\*) 1年内返済予定の長期借入金を含む。

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
差入保証金	-	105,863	-	105,863
長期借入金(*)	-	907,018	-	907,018

(\*) 1年内返済予定の長期借入金を含む。

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

差入保証金

これらの時価は、信用リスクが僅少であると認識しており、期間に基づく区分ごとに想定される無リスク金利で割り引いた現在価値を算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2025年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	213,572	53,332	160,240
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	213,572	53,332	160,240
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,576	1,709	133
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,576	1,709	133
合計		215,148	55,041	160,107

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額5,000千円)及び投資事業有限責任組合への出資(連結貸借対照表計上額45,192千円)については、市場価格がないことから、上記には含めておりません。

当連結会計年度(2026年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	263,844	55,041	208,803
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	263,844	55,041	208,803
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		263,844	55,041	208,803

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額5,000千円)及び投資事業有限責任組合への出資(連結貸借対照表計上額43,624千円)については、市場価格がないことから、上記には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券（その他有価証券）について15,152千円の減損処理を行っております。

当連結会計年度において、該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、主に確定給付制度を採用しておりますが、一部の連結子会社は、確定拠出制度を採用しております。

退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算には、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。また、複数事業主制度に係る総合設立型企業年金基金制度である日本ITソフトウェア企業年金基金に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	206,473千円	226,371千円
退職給付費用	30,683	21,969
退職給付の支払額	4,650	18,335
制度への拠出額	6,135	5,810
退職給付に係る負債の期末残高	226,371	224,195

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	316,689千円	305,835千円
年金資産	90,318	81,640
	226,371	224,195
非積立型制度の退職給付債務	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	226,371	224,195
退職給付に係る負債	226,371	224,195
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	226,371	224,195

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度30,683千円 当連結会計年度21,969千円

3. 確定拠出制度

一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度4,184千円、当連結会計年度4,436千円でありま  
す。

4. 複数事業主制度

当社が加入する企業年金基金は、自社の拠出に対応する年金資産の額が合理的に計算できないため、「退職給付に  
係る会計基準注解」(注12)により、年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。要拠出額を退  
職給付費用として処理している複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度4,366千円、当  
連結会計年度5,810千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
年金資産の額	58,726,013千円	58,861,543千円
年金財政計算上の給付債務の額	52,636,715	54,372,646
差引額	6,089,298	4,488,897

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度

日本ITソフトウェア企業年金基金 0.46% (2025年3月31日現在)

当連結会計年度

日本ITソフトウェア企業年金基金 0.43% (2026年3月31日現在)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、剰余金(前連結会計年度6,089,298千円、当連結会計年度4,488,897千円)であ  
ります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

( 税効果会計関係 )

1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 ( 2025年 3月31日 )	当連結会計年度 ( 2026年 3月31日 )
繰延税金資産		
未払事業税	6,524千円	3,054千円
減価償却費	3,914	4,249
商品評価損	10,259	-
投資有価証券評価損	19,800	16,667
減損損失	-	46,165
資産除去債務	9,214	14,392
賞与引当金	22,443	9,802
退職給付に係る負債	31,327	77,325
税務上の繰越欠損金 ( 注 ) 2	230,669	186,583
その他	9,044	9,284
繰延税金資産小計	343,196	367,521
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 ( 注 ) 2	209,824	186,583
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	51,676	165,748
評価性引当額小計 ( 注 ) 1	261,500	352,332
繰延税金資産合計	81,695	15,189
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	50,482	65,815
資産除去債務	-	7,836
その他	10,198	89
繰延税金負債合計	60,679	73,740
繰延税金資産及び負債 ( ) の純額	21,016	58,551

( 注 ) 1 繰延税金資産から控除された額 ( 評価性引当額 ) に重要な変動が生じております。当該変動の主な内容は、当連結会計年度において計上した減損損失及び退職給付に係る負債が増加したことによるものであります。

2 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度 ( 2025年 3月31日 )

	1年以内 ( 千円 )	1年超 2年以内 ( 千円 )	2年超 3年以内 ( 千円 )	3年超 4年以内 ( 千円 )	4年超 5年以内 ( 千円 )	5年超 ( 千円 )	合計 ( 千円 )
税務上の繰越欠 損金 ( 1 )	96,135	2,129	-	-	19,353	113,052	230,669
評価性引当額	86,656	2,129	-	-	19,353	101,685	209,824
繰延税金資産	9,479	-	-	-	-	11,366	20,845

( 1 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 2 ) 税務上の繰越欠損金に係る繰延税金資産については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断しております。

当連結会計年度(2026年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠 損金( )	2,129	-	-	19,340	12,796	152,318	186,583
評価性引当額	2,129	-	-	19,340	12,796	152,318	186,583
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

( ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.6%	税金等調整前当期純損失 を計上しているため、記 載を省略しております。
連結子会社等に適用される税率の影響	6.4	
住民税均等割	6.9	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.2	
評価性引当額の増減	9.4	
のれん償却費	23.9	
グループ通算制度による影響額	19.5	
税率変更による影響額	1.0	
税額控除	10.2	
その他	4.3	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.4	

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社及びすべての国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から10～15年と見積り、割引率は0.1%～1.4%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

当連結会計年度において、資産の除去時点において必要とされる除去費用が固定資産取得時における見積額を大幅に超過する見込みであることが明らかになったことから、見積りの変更による増加額を0.99%で割り引き、変更前の資産除去債務残高に2百万円加算しております。資産除去債務の残高の推移は次の通りであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
期首残高	49,138千円	39,498千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	1,229
見積りの変更による増加額	-	2,957
時の経過による調整額	172	188
資産除去債務の履行による減少額	9,812	211
期末残高	39,498	43,661

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、当社グループの報告セグメントを製品及びサービスごとに分解した場合の内訳は、以下のとおりであります。

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	
ソフトウェアプロダクト領域	899,457	-	899,457
ソフトウェアディストリビューション領域	1,318,589	-	1,318,589
ソフトウェアサービス領域	1,005,769	-	1,005,769
データアナリティクス領域	-	914,973	914,973
外部顧客への売上高	3,223,816	914,973	4,138,789

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	
ソフトウェアプロダクト領域	772,572	-	772,572
ソフトウェアディストリビューション領域	1,275,902	-	1,275,902
ソフトウェアサービス領域	944,330	-	944,330
データアナリティクス領域	-	931,671	931,671
外部顧客への売上高	2,992,804	931,671	3,924,475

(注)当連結会計年度より、報告セグメントを変更しております。詳細は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。また、経営実態をより適切に表すために、顧客との契約から生じる収益を製品及びサービスごとに分解した情報に変更しております。

なお、前連結会計年度の顧客との契約から生じる収益を分解した情報については、これらの変更後の区分により作成したものを記載しております。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4.会計方針に関する事項(5)重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

契約資産及び契約負債の残高等

前連結会計年度（自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日）

（単位：千円）

	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	1,050,053	1,035,037
契約負債	148,770	100,849

顧客との契約から生じた債権は、連結貸借対照表のうち「受取手形及び売掛金」に含まれております。契約負債は、主に履行義務の充足の時期に収益を認識する契約について、支払条件に基づいて顧客から受け取った期間分の前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当期に認識した収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は148,770千円であります。

当連結会計年度（自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日）

（単位：千円）

	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	1,035,037	951,056
契約負債	100,849	141,214

顧客との契約から生じた債権は、連結貸借対照表のうち「受取手形及び売掛金」に含まれております。契約負債は、主に履行義務の充足の時期に収益を認識する契約について、支払条件に基づいて顧客から受け取った期間分の前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当期に認識した収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は100,849千円であります。

残存履行義務に配分した取引価格

当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ソフトウェア事業」及び「アナリシスソフトウェア事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ソフトウェア事業」は、組込みネットワーク、セキュリティ&リアルタイムOS関連製品、高速起動製品、データベース製品等の主に自社開発によるデバイス組込み用ソフトウェア、海外ソフトウェアの輸入販売、テクニカルサポート、組込みソフトウェア等の受託を中心とした各種ソフトウェアの設計、開発及びデータコンテンツのライセンス等に関するセグメントであります。

「アナリシスソフトウェア事業」は、統計・数値データ解析ソフトウェア等における海外ソフトウェアの輸入販売及びテクニカルサポート等に関するセグメントであります。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当連結会計年度より、「ソフトウェアプロダクト事業」、「ソフトウェアディストリビューション事業」及び「ソフトウェアサービス事業」を「ソフトウェア事業」として統合し、「データアナリティクス事業」を「アナリシスソフトウェア事業」に名称を変更した上で、2つのセグメントに変更しております。これは、2025年6月に公表した「中期経営計画」(2026年-2028年)を踏まえて、事業セグメントについて改めて検討した結果、当社グループの事業戦略は、顧客のソフトウェアニーズに対して全方位的な支援を行うビジネスモデルに変革しており、当該事業戦略の実行のための組織体制の統合及び経営管理体制の見直しの実態を踏まえ、「ソフトウェア事業」及び「アナリシスソフトウェア事業」の2つの報告セグメントが適切であると判断したことによるものであります。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、当連結会計年度の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失( )は、営業利益又は営業損失( )ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の算定においては、サービスごとの売上高、利益の集計を行っております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,223,816	914,973	4,138,789	-	4,138,789
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,223,816	914,973	4,138,789	-	4,138,789
営業利益	44,755	51,743	96,498	-	96,498
セグメント資産	3,375,509	895,181	4,270,690	820,214	3,450,476
その他の項目					
減価償却費	26,951	1,806	28,757	-	28,757
のれん償却費	55,170	38,841	94,011	-	94,011
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	37,681	452	38,133	-	38,133

（注）セグメント資産の調整額は、投資と資本の相殺消去、セグメント間の債権債務相殺消去等に係るものであります。

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表計上額
	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,992,804	931,671	3,924,475	-	3,924,475
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,992,804	931,671	3,924,475	-	3,924,475
営業利益又は営業損失（ ）	244,619	43,502	201,117	-	201,117
セグメント資産	3,587,480	873,243	4,460,722	761,783	3,698,939
その他の項目					
減価償却費	76,538	1,270	77,808	-	77,808
のれん償却費	55,170	38,841	94,011	-	94,011
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	52,623	4,471	57,094	-	57,094

（注）セグメント資産の調整額は、投資と資本の相殺消去、セグメント間の債権債務相殺消去等に係るものであります。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	4,270,690	4,460,722
セグメント間取引消去等	820,214	761,783
連結財務諸表の資産	3,450,476	3,698,939

【関連情報】

前連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	ソフトウェア プロダクト領域	ソフトウェア ディストリ ビューション 領域	ソフトウェア サービス領域	データ アナリティクス 領域	連結財務諸表 計上額
外部顧客への売上高	899,457	1,318,589	1,005,769	914,973	4,138,789

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産が存在しないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	ソフトウェア プロダクト領域	ソフトウェア ディストリ ビューション 領域	ソフトウェア サービス領域	データ アナリティクス 領域	連結財務諸表 計上額
外部顧客への売上高	772,572	1,275,902	944,330	931,671	3,924,475

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産が存在しないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日）

（単位：千円）

	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	計	調整額	連結財務諸表計上額
減損損失	219,628	-	219,628	-	219,628

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日）

（単位：千円）

	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	全社・消去	合計
当期償却額	55,170	38,841	-	94,011
当期末残高	193,045	155,362	-	348,407

当連結会計年度（自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日）

（単位：千円）

	ソフトウェア事業	アナリシスソフトウェア事業	全社・消去	合計
当期償却額	55,170	38,841	-	94,011
当期末残高	-	116,522	-	116,522

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

( 1 株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日 )	当連結会計年度 (自 2025年 4 月 1 日 至 2026年 3 月31日 )
1 株当たり純資産額	229.09円	182.69円
1 株当たり当期純利益又は 1 株当たり当期純損失 ( )	8.71円	49.59円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。当連結会計年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、1 株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1 株当たり当期純利益又は 1 株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日 )	当連結会計年度 (自 2025年 4 月 1 日 至 2026年 3 月31日 )
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 ( ) (千円)	91,084	518,702
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 ( ) (千円)	91,084	518,702
普通株式の期中平均株式数 (株)	10,458,883	10,458,883

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	28,590	199,956	1.9	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	36,824	716,729	1.9	2027年～2030年
合計	65,414	916,685	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	199,956	199,956	199,956	116,861

【資産除去債務明細表】

明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高(千円)	1,784,591	3,924,475
税金等調整前中間(当期)純損失( ) (千円)	179,220	433,316
親会社株主に帰属する中間(当期)純損失 ( )(千円)	191,181	518,702
1株当たり中間(当期)純損失( ) (円)	18.28	49.59

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	769,517	1,384,465
売掛金	624,537	502,977
商品及び製品	-	450
仕掛品	2,361	953
前払費用	65,422	80,982
未収還付法人税等	-	1,439
短期貸付金	50,000	-
1年内回収予定の長期貸付金	-	30,000
その他	58,648	36,420
流動資産合計	1,570,485	2,037,686
固定資産		
有形固定資産		
建物	58,011	-
工具、器具及び備品	28,288	-
有形固定資産合計	86,299	-
無形固定資産		
ソフトウェア	59,604	32,908
その他	293	-
無形固定資産合計	59,897	32,908
投資その他の資産		
関係会社株式	882,545	739,304
投資有価証券	260,341	307,468
長期貸付金	-	120,000
差入保証金	113,319	112,989
貸倒引当金	-	80,299
投資その他の資産合計	1,256,204	1,199,463
固定資産合計	1,402,400	1,232,371
資産合計	2,972,885	3,270,057

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年 3月31日)	当事業年度 (2026年 3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	203,077	118,642
1年内返済予定の長期借入金	-	199,956
未払金	84,700	48,670
未払費用	18,273	12,210
未払法人税等	17,247	14,108
未払消費税等	19,253	1,353
契約負債	72,918	115,748
その他	8,897	11,683
流動負債合計	424,364	522,369
固定負債		
長期借入金	-	716,729
退職給付引当金	26,773	23,548
資産除去債務	24,042	25,226
繰延税金負債	41,736	71,920
その他	385	385
固定負債合計	92,936	837,807
負債合計	517,299	1,360,176
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,483,482	1,483,482
資本剰余金		
資本準備金	1,453,482	1,453,482
資本剰余金合計	1,453,482	1,453,482
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	590,884	1,169,951
利益剰余金合計	590,884	1,169,951
自己株式	121	121
株主資本合計	2,345,960	1,766,893
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	109,625	142,988
評価・換算差額等合計	109,625	142,988
純資産合計	2,455,586	1,909,881
負債純資産合計	2,972,885	3,270,057

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	1 2,060,488	1 1,983,066
売上原価	1 1,030,272	1 1,109,880
売上総利益	1,030,216	873,186
販売費及び一般管理費	1, 2 1,022,742	1, 2 1,150,186
営業利益又は営業損失( )	7,474	277,000
営業外収益		
受取利息	167	1 1,400
受取配当金	2,965	4,304
受取保険金	-	10,000
為替差益	-	8,172
その他	-	107
営業外収益合計	3,131	23,983
営業外費用		
支払利息	-	6,641
支払手数料	-	24,046
為替差損	3,243	-
投資事業組合運用損	2,217	1,425
貸倒引当金繰入額	-	80,299
その他	-	348
営業外費用合計	5,459	112,759
経常利益又は経常損失( )	5,146	365,776
特別損失		
固定資産除却損	17	-
投資有価証券評価損	12,577	-
関係会社株式評価損	-	3 143,240
抱合せ株式消滅差損	470,751	-
減損損失	-	4 79,306
特別損失合計	483,345	222,546
税引前当期純損失( )	478,199	588,321
法人税、住民税及び事業税	22,888	24,106
法人税等調整額	3,075	14,852
法人税等合計	19,813	9,254
当期純損失( )	458,386	579,067

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,483,482	1,453,482	1,453,482	132,498	132,498	121	2,804,346
当期変動額							
当期純損失（ ）				458,386	458,386		458,386
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	458,386	458,386	-	458,386
当期末残高	1,483,482	1,453,482	1,453,482	590,884	590,884	121	2,345,960

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	137,198	137,198	2,941,544
当期変動額			
当期純損失（ ）			458,386
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）	27,573	27,573	27,573
当期変動額合計	27,573	27,573	485,959
当期末残高	109,625	109,625	2,455,586

当事業年度（自 2025年 4月 1日 至 2026年 3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,483,482	1,453,482	1,453,482	590,884	590,884	121	2,345,960
当期変動額							
当期純損失（ ）				579,067	579,067		579,067
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	579,067	579,067	-	579,067
当期末残高	1,483,482	1,453,482	1,453,482	1,169,951	1,169,951	121	1,766,893

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	109,625	109,625	2,455,586
当期変動額			
当期純損失（ ）			579,067
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）	33,363	33,363	33,363
当期変動額合計	33,363	33,363	545,704
当期末残高	142,988	142,988	1,909,881

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法を採用しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は建物及び建物附属設備6～18年、工具、器具及び備品4～15年です。

無形固定資産

市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売金額を基準として販売金額に応じた割合に基づく償却額と見込販売可能期間（3年）に基づく定額償却額のいずれか多い金額をもって償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しております。

4. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

5. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び収益を認識する時点は以下のとおりであります。

ソフトウェアの使用許諾による収益

ソフトウェア製品を顧客に使用許諾して対価を得るもので、契約時一時金による収益、ランニングロイヤルティによる収益及びライセンスによる収益に区分されます。

・契約時一時金による収益

ソフトウェアにおける製品のソースコード又はオブジェクトコードを顧客に使用許諾する対価として收受するものであります。顧客に製品を引き渡した時点で顧客に所有権が移転し、対価を受け取る権利が確定するため、当該時点（一時点）で収益を認識しております。

・ランニングロイヤルティによる収益

顧客がソフトウェア製品を複製してデバイスに組み込んで販売する際に、複製本数に応じて收受する対価であります。顧客が当該製品を複製した時点で対価を受け取る権利が確定するため、当該時点（一時点）で収益を認識しております。

・ライセンスによる収益

ソフトウェア製品による知的財産のライセンスの使用及び期間等を限定して顧客に提供するものであります。主に、品質向上支援ツールや車載機器開発・テストツールといった開発ツール系の製品群をこの形

態で提供しています。対象となる知的財産が有する能力は契約時点で確定しており、その後、当該知的財産に著しい影響を与える活動を行うことは契約に含まれておらず、また、顧客に合理的に期待されていないと認識しております。さらに、当該知的財産の機能等が適宜アップデートされる等により、顧客が影響を受けることはないと認識しております。そのため、知的財産を使用する権利（使用権）としてライセンス提供を開始した時点（一時点）で収益を認識しております。

#### ソフトウェア受託開発による収益

顧客の求めに応じて、ソフトウェア製品を特定のプラットフォームへの移植やカスタム対応の対価として收受するものであります。ソフトウェア製品の移植やカスタマイズを履行義務としており、顧客が成果物に対して検収合格と判断したことを書面等で確認した時点（一時点）において、履行義務が充足されたと考え、収益を認識しております。

#### サポート取引による収益

ソフトウェア製品を使用許諾した顧客に対する技術サポートへの対価として收受するものであります。納品後一定期間に限って提供する初期サポートや年単位で開発工数を提供する年間サポートなどがあります。技術サポートを履行義務としており、契約期間を履行義務の充足期間（一定の期間）として均等に収益を認識しております。

なお、上記いずれの取引においても、取引の対価は履行義務を充足してから1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

## 6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権及び外貨建金銭債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

### （重要な会計上の見積り）

#### 関係会社株式の評価

##### 当事業年度の財務諸表に計上した金額

当社は、関係会社株式として、株式会社ライトストーンの株式739,304千円（前事業年度739,304千円）を計上、株式会社グレースシステムの株式0千円（前事業年度143,240千円）を計上しております。

また、株式会社グレースシステムの株式について、関係会社株式評価損143,240千円を当事業年度に計上しております。

#### 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

##### ・算出方法

当社は、関係会社株式について、帳簿価額と1株当たり純資産額等を基礎に各社の超過収益力等を反映した実質価額を比較し、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したと認められる場合には、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、相当の減額をし、評価差額を関係会社株式評価損として計上します。

なお、各社の実質価額の著しい低下の判定のため、実質価額に含まれる超過収益力等の減少の有無を検討した結果、株式会社ライトストーンに係る株式については、実質価額の著しい低下が認められないことから減損処理は不要と判断しております。株式会社グレースシステムに係る株式については、実質価額の著しい低下が認められたことから減損処理を行い、143,240千円の関係会社株式評価損を計上しております。

##### ・主要な仮定

超過収益力を反映した実質価額の評価には、各関係会社の事業計画を用いており、事業計画の主要な仮定は翌事業年度以降の売上予測となっております。

##### ・翌事業年度の財務諸表に与える影響

当社の過去の経験と利用可能な情報に基づいて設定した仮定は将来の不確実性を伴うため、翌事業年度において、各社の売上予測が大幅に減少した場合には、関係会社株式評価損を計上する可能性があります。

(貸借対照表関係)

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
短期金銭債権	80,301千円	92,936千円
長期金銭債権	-	120,000
短期金銭債務	14,520	-

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	765千円	8,502千円
仕入高・外注費	13,508千円	3,180千円
販売費及び一般管理費	53,554千円	56,334千円
営業取引以外の取引による取引高	-千円	521千円

- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度6%、当事業年度7%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度94%、当事業年度93%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
役員報酬	81,300千円	90,600千円
給料及び手当	498,388	550,881
法定福利費	72,385	78,605
広告宣伝費	27,386	11,842
不動産賃借料	66,225	67,289
支払手数料	188,256	286,119
研究開発費	51,056	35,854

- 3 関係会社株式評価損143,240千円は、連結子会社である株式会社グレープシステムに対するものであります。

4 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

会社	場所	用途	種類
株式会社ユビキタスAI	東京都新宿区等	事業用資産	建物、工具、器具及び備品、ソフトウェア、その他(無形固定資産)

減損損失の算定にあたっては、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として会社別を基礎として資産のグルーピングを行っております。

上記資産グループについては、営業活動による収益性の低下が認められ、短期的な回復が見込まれないため、当該資産グループに係る資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

減損損失の内訳は、建物53,252千円、工具、器具及び備品25,340千円、ソフトウェア510千円、その他(無形固定資産)203千円となります。

なお、回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから零として評価しております。

(有価証券関係)

子会社株式

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
子会社株式	882,545	739,304

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
税務上の繰越欠損金	167,282千円	126,364千円
減損損失	-	45,312
関係会社株式評価損	-	45,135
貸倒引当金	-	25,302
投資有価証券評価損	19,136	14,402
資産除去債務	7,578	7,923
退職給付引当金	8,417	7,420
未払事業税	3,384	3,054
減価償却費	3,029	2,390
商品評価損	10,259	-
その他	9,481	2,243
<b>繰延税金資産小計</b>	<b>228,565</b>	<b>279,544</b>
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	157,804	126,364
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	49,923	153,181
<b>評価性引当額小計</b>	<b>207,726</b>	<b>279,544</b>
<b>繰延税金資産合計</b>	<b>20,838</b>	<b>-</b>
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	50,482	65,815
資産除去費用	-	6,105
その他	12,092	-
<b>繰延税金負債合計</b>	<b>62,574</b>	<b>71,920</b>
<b>繰延税金負債( )の純額</b>	<b>41,736</b>	<b>71,920</b>

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度 (2025年3月31日)	当事業年度 (2026年3月31日)
税引前当期純損失を 計上しているため、 注記を省略しており ます。	同左

3. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、財務諸表「注記事項（重要な会計方針）5. 収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区 分	資産の種 類	当期首残 高	当 期 増加額	当 期 減少額	当 期 償却額	当期末残 高	減価償却 累計額
有形 固定資産	建物	58,011	1,229	53,252 (53,252)	5,988	-	23,884
	工具、器具及び備品	28,288	4,597	25,688 (25,340)	7,197	-	57,333
	計	86,299	5,826	78,940 (78,592)	13,184	-	81,216
無形 固定資産	ソフトウェア	59,604	47,911	510 (510)	74,096	32,908	-
	その他	293	-	203 (203)	90	-	-
	計	59,897	47,911	713 (713)	74,186	32,908	-

- (注) 1. 「当期減少額」の( )は内書きで、減損損失計上額であります。  
2. 当期増加額・減少額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	増加額	事業所開設	1,229千円
	減少額	減損損失	53,252千円
工具、器具及び備品	増加額	購入	4,597千円
	減少額	減損損失	25,340千円
ソフトウェア	増加額	販売用開発	47,911千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	-	80,299	-	80,299

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 無料
公告掲載方法	電子公告の方法により行う。ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。 <a href="https://www.ubiquitous-ai.com/ir/kokoku.html">https://www.ubiquitous-ai.com/ir/kokoku.html</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第24期）（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）2025年6月30日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2025年6月30日関東財務局長に提出

(3) 半期報告書及び確認書

（第25期中）（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）2025年11月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2025年7月1日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

2025年9月4日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

2026年6月29日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）及び第19号（提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年 6 月29日

株式会社コピキタス A I

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
大阪事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大好 慧  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 山内 紀彰  
業務執行社員

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社コピキタス A I の2025年 4 月 1 日から2026年 3 月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社コピキタス A I 及び連結子会社の2026年 3 月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

株式会社グレースシステムに係るのれんの評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は、注記事項（連結損益計算書関係） 6 減損損失に記載のとおり、当連結会計年度の連結損益計算書において、株式会社グレースシステム（以下、「グレースシステム社」という。）に係るのれんの減損損失137,875千円を計上している。</p> <p>会社は、外部環境及び事業環境の変化に伴う顧客の投資抑制や、主力製品の代理店契約終了の影響により、翌連結会計年度以降の経営環境が著しく悪化する見込みであることから、当該のれんを含む資産グループについて、当連結会計年度において減損の兆候があると判断した。このため会社は、減損損失の認識の判定を行い、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が、のれんを含む固定資産の帳簿価額を下回ったことから減損損失を認識し、回収可能価額をゼロと評価したため、のれんを含む固定資産全額を減損損失として計上した。</p> <p>のれんの減損損失の認識の判定に用いる割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、グレースシステム社の事業計画に基づいて見積られるが、当該事業計画における主要な仮定は売上予測である。売上予測は、将来の経営環境や市場動向等により影響を受けるため、見積りの不確実性が高く経営者の主観的な判断を伴う。</p> <p>以上より、当監査法人は、グレースシステム社に係るのれんの評価が監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、グレースシステム社に係るのれんの評価を検討するに当たって、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 割引前将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる事業計画の承認プロセス等、のれんの評価に関連する内部統制の整備状況を評価した。</li> </ul> <p>(2) 減損損失の認識についての判定結果の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 割引前将来キャッシュ・フローの見積りに用いられた事業計画と、取締役会で承認された事業計画を比較し、数値の整合性を確かめた。</li> <li>・ 将来の事業計画の見積りの不確実性の程度を評価するために、過年度の事業計画と実績を比較した。</li> <li>・ 事業計画の主要な仮定である売上予測について、将来の経営環境や市場動向等による影響を経営者に質問するとともに、主要な製品ごとに直近事業年度の実績との比較分析を実施した。</li> <li>・ 主力製品の代理店契約の終了について、関連証憑を閲覧するとともに、その影響が事業計画に適切に反映されていることを確かめた。</li> <li>・ 当連結会計年度にのれんの減損損失を計上することとなった判断について経営者に質問し、会計処理の適時性を評価した。</li> </ul>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

### < 内部統制監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社コピキタス A I の2026年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社コピキタス A I が2026年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

## 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## <報酬関連情報>

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年 6月29日

株式会社ユビキタス A I

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大好 慧

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山内 紀彰

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユビキタス A I の2025年 4月 1日から2026年 3月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ユビキタス A I の2026年 3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

株式会社グレープシステム株式の評価 監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社は、注記事項（損益計算書関係） 3 関係会社株式評価損に記載のとおり、当事業年度の損益計算書において、株式会社グレープシステム（以下、「グレープシステム社」という。）の株式に係る関係会社株式評価損143,240千円を計上している。なお、会社はグレープシステム社株式を超過収益力等が反映された価額で取得している。</p> <p>非上場の子会社に対する投資を含む市場価格のない株式については、取得原価をもって貸借対照表価額とするが、当該株式の発行会社の財政状態の悪化又は超過収益力等の減少により、実質価額が著しく低下した場合には、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて減損処理が必要となる。</p> <p>会社は、当事業年度においてグレープシステム社株式の実質価額に含まれる超過収益力等の減少の有無や実質価額の回復可能性を検討した結果、相当の減額が必要であると判断し、関係会社株式評価損を計上した。</p> <p>グレープシステム社株式は財務諸表における金額的重要性があり、また、連結貸借対照表に計上されているグレープシステム社に係るのれんの評価と同様に、超過収益力等の減少の有無の検討を含む実質価額の著しい低下や実質価額の回復可能性の判定には、見積りの不確実性や経営者の主観的な判断を伴う。</p> <p>以上より、当監査法人はグレープシステム社株式の評価が監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、グレープシステム社株式の評価を検討するに当たって、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市場価格のない株式の減損処理に関連する内部統制の整備状況を評価した。</li> </ul> <p>(2) 実質価額の著しい低下の判定結果の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連結財務諸表の監査報告書において「株式会社グレープシステムに係るのれんの評価」が監査上の主要な検討事項に該当すると判断し、監査上の対応について記載している。</li> </ul> <p>当該記載内容は、財務諸表監査における監査上の対応と実質的に同一の内容であることから、この欄においては、監査上の対応に関する具体的な記載を省略する。</p>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうかを注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。